

令和 5・6 年度 神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクト運営委託業務

令和 6 年度実施報告書（抜粋※）

目 次

1. 業務の目的	1
2. 実施事項およびスケジュール	2
2.1 実施項目	2
2.2 業務スケジュール	3
3. 実施報告	4
3.1 広報活動報告	4
3.2 相談窓口対応実績	8
3.3 各種イベント（体験会・ワークショップ）実施結果	9
3.4 介護事業者・企業間のネットワーク構築（交流会）実施結果	19
3.5 R3～6 年度業務参加者への継続フォロー実施結果	20
3.6 「介護テクノロジー導入促進の手引き」改定報告	24
3.7 推進委員会実施報告	29
3.8 成果報告会実施報告	30
4. R6 年度業務の考察	33

※令和 7・8 年度の仕様内容に係る部分のみを抜粋

## 1. 業務の目的

本業務は、実用性の高い介護ロボットや ICT 機器・ソフトウェア（アプリ）、先進的な福祉用具等（以下「介護テクノロジー」という。）に関して、以下の内容を目的として実施していくものである。

- ・ 介護現場の業務負担軽減、人材確保・定着等に繋げるため、市内の介護現場への介護テクノロジーの導入を推進すること
- ・ 市内企業や神戸医療産業都市進出企業の、介護テクノロジーの事業化及び販路拡大を支援すること
- ・ 令和 5・6 年度神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクト運営業務委託（以下「本業務」という）による企業支援を通じ、本業務に参画した企業の神戸医療産業都市への進出を促進すること

本業務において、介護ロボットとは、ロボット技術（センサー、駆動系、知能・制御系）を活用して、介護者の負担軽減や、被介護者（高齢者、障害者、虚弱者等）の自立支援、機能障害の回復と社会復帰の促進を目的とした介護テクノロジーをいう。ICT 機器・ソフトウェア（アプリ）とは、ICT・ソフトウェアの活用により、介護現場の職員間の情報共有や記録・請求等の業務を効率化し、介護者の負担軽減を図ることや、職員と被介護者のコミュニケーションを支援すること等を目的とした介護テクノロジーをいう。福祉用具とは、その他広く介護者の負担軽減や被介護者の自立支援、機能回復訓練に資する器具をいう。

事業名 : 令和 5・6 年度神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクト運営業務委託

期間 : 令和 5 年 6 月 30 日～ 令和 7 年 3 月 31 日

発注者 : 神戸市企画調整局医療産業都市部調査課/神戸市福祉局介護保険課（以下「神戸市」という）

## 2. 実施事項およびスケジュール

### 2.1 実施項目

本業務の実施項目を図表 2.1.1 に示す。

本内容は次頁に示す実施内容の変更を反映したものである。

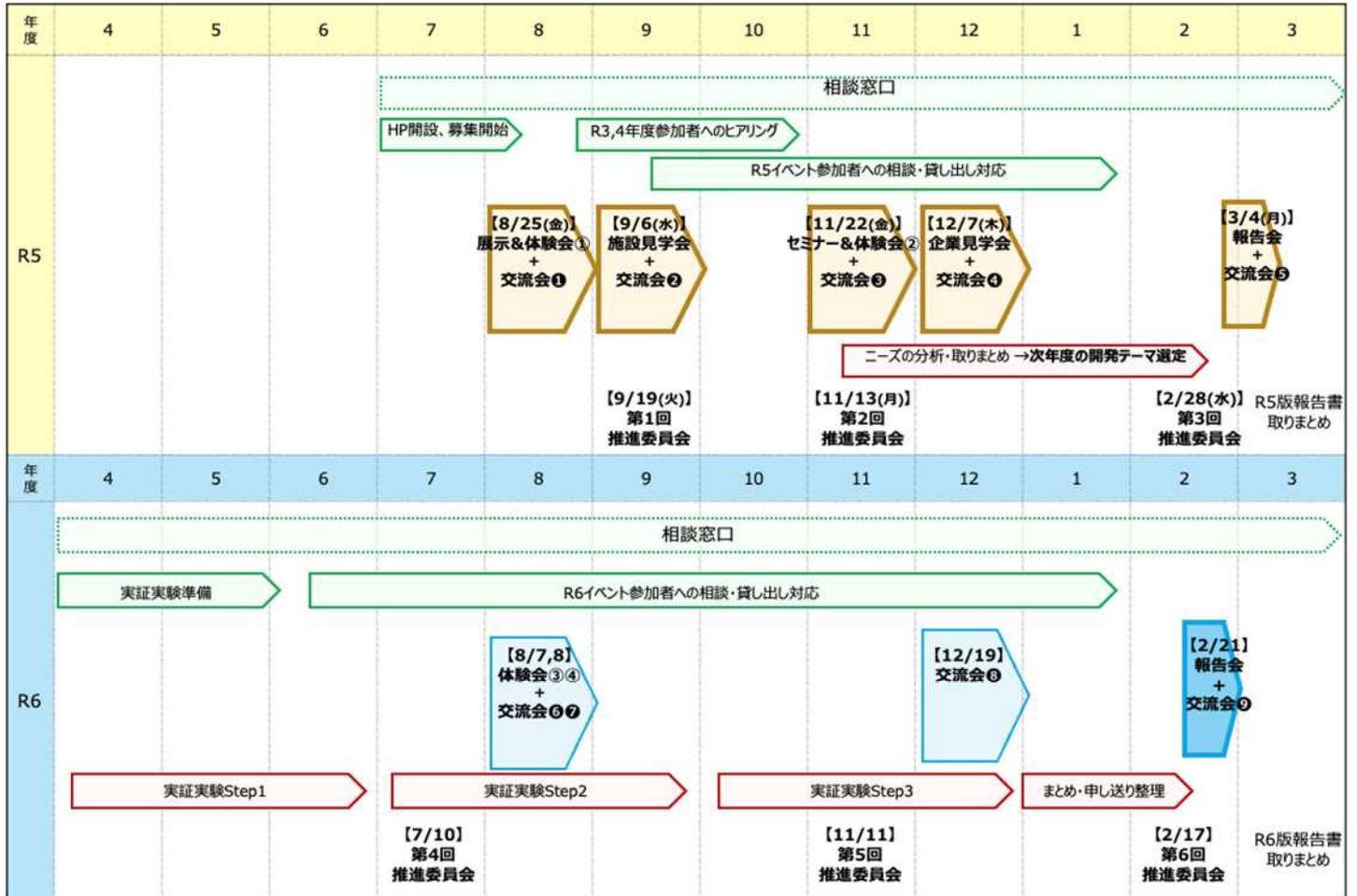
図表 2.1.1 実施項目

分類	実施事項	報告書該当箇所
(1) 介護事業所・企業等を対象とした相談支援窓口（事務局）の設置・運用	・本プロジェクトの効率的かつ効果的な実施に向けて、事業全体の運営および進捗管理等を行うための事務局を設置するとともに、介護テクノロジーの開発企業、介護事業所等からの問い合わせ、相談に対応し、必要に応じた支援を実施する。	3.2 相談窓口対応実績
(2) 各種イベント（セミナー・機器体験・ニーズ発表会・成果報告等）の実施	・介護テクノロジーに関する各種イベントの開催を通じて、本プロジェクトの認知度を高め、多くの企業や介護事業所からの参画が得られるようにする。	3.1 広報活動報告 3.3 各種イベント（体験会・セミナー・企業見学会）実施結果 3.8 成果報告会実施報告
(3) 介護テクノロジーの普及に資する介護事業者・企業間のネットワークの構築	・介護事業者と企業（介護事業者間、企業間を含む）が情報交換を行う場を提供し、神戸市における介護テクノロジーの普及に資するネットワークを構築する。	3.4 介護事業者・企業間のネットワーク構築（交流会）実施結果
(4) 「神戸市介護テクノロジー導入促進の手引き」を用いた市内介護事業所への訪問等による介護テクノロジーの普及・導入促進	・令和4年度事業において作成した「介護テクノロジー導入促進の手引き」を介護事業者や企業に対する積極的なPRを行い、介護テクノロジーの導入を促進する。 ・介護事業者や企業から得られた意見なども参考にしうえで、手引きの改訂を各年度末に行う。	3.5 R3,4年度プロジェクト参加者への継続フォロー実施結果
(5) ニーズ調査及び開発企業との連携に基づく介護テクノロジーの開発	・令和5年度において、介護事業者への訪問やアンケート等を行い、市が提供する各種資料と併せて、介護現場における介護テクノロジー機器に対するニーズ調査を分析する。 ・令和6年度において、ニーズ調査の結果も踏まえ、介護現場の課題解決を図るため、企業及び市内介護事業所と連携して、市の制度も活用しながら介護テクノロジーの共同開発に取り組む。	3.6 「介護テクノロジー導入促進の手引き」改定報告 3.7 介護テクノロジー開発支援報告

## 2.2 業務スケジュール

業務スケジュールを以下に示す。

図表 2.1 業務スケジュール



### 3. 実施報告

#### 3.1 広報活動報告

##### (1) チラシ・リーフレットによる広報

広報活動にあたり以下の配布物を制作した。(別途 参考資料 4「本業務広報用リーフレット/チラシ類」あり)

図表 3.1.1 広報用リーフレット

##### 8/7,8 体験会・交流会告知

表 裏



##### 12/19 ワークショップ・交流会告知

表 裏



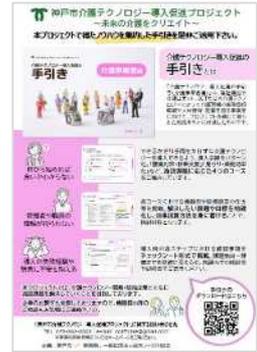
##### 2/21 報告会・交流会告知

表のみ



##### 手引き活用案内

表のみ



配布先：

##### a) 介護関連団体

一般社団法人神戸市老人福祉施設連盟、神戸シルバーサービス事業者連絡会、神戸市介護サービス協会、公益財団法人こうべ市民福祉振興協会、神戸市介護老人保健施設協会、公益社団法人兵庫県看護協会、一般社団法人兵庫県理学療法士会、一般社団法人兵庫県作業療法士会、公益社団法人神戸市民間病院協会、神戸市社会福祉協議会

##### b) 介護施設・大学等

神戸市内介護事業所	300 施設
神戸市内看護大学	22 校

##### c) 企業

日本ノーリフト協会賛助企業	33 社
令和 3・4・5 年度本業務参加企業	124 社

##### d) 協会会員

協会個人会員	253 名
協会法人会員	129 法人

##### e) 行政関連

国会議員	12 名
兵庫県県議	86 名
神戸市議	65 名

配布数：累計 1,236 枚 ※別途データでの配布あり

## (2) ホームページによる広報

本業務のホームページを制作し、各種イベントの告知と受付を行なった。

URL : <https://www.kobekaiteku.jp/> (サーバーは日本ノーリフト協会にて準備 : クラウドサーバー)



図表 3.1.3 本業務ホームページ

本業務のホームページへのアクセス状況を図表 3.1.4 に示す。昨年度業務との対比（4/1～翌 3 月 10 日を対象）をすると、ページビューは 7,973、ユーザー数は 2,308 であり、昨年と比べページビューは-26.3%、ユーザー数は+8.6%の変化があった。地域別では、京阪神地区は神戸市・大阪市からのアクセスがそれぞれ 7.8%、5.6%減少している一方で、明石市・京都市からのアクセスが 50%、85.7%増加している。また、千代田区・新宿区・港区など東京からのアクセスも高まっていることを示している。

流入経路は Organic Search, Direct が前年より上昇しており、閲覧傾向が下記の順で多いことを表している。

- ① Google 検索結果をもとに閲覧した方
- ② もともと当ページの内容を知っており、ブックマークや直接 URL を入力するなどして閲覧した方
- ③ 第三者から送られた URL をクリックして閲覧した方

継続的に当ページで情報収集を行うユーザーのアクセス状況から、京阪神地区へ広域的にユーザーが広がっている一方で、神戸市内のユーザーは固定化しつつあることを示している。

図表 3.1.4 ホームページアクセス解析結果



アクティブユーザー (市区町村)

市区町村	アクティブユーザー	変化率
Kobe	402	↓ 7.8%
Osaka	236	↓ 5.6%
Chiyoda City	64	↑ 68.4%
Minato City	47	0.0%
Akashi	51	↑ 50.0%
Shinjuku City	48	↑ 77.8%
Kyoto	39	↑ 85.7%

セッションのメインチャネルグループ

チャネルグループ	セッション数	変化率
Organic Search	1,551	↑ 37.4%
Direct	1,267	↑ 12.5%
Referral	845	↓ 29.1%
Organic Social	131	↓ 12.1%

エンゲージメントは昨年より 20.45%減少しているが、総ユーザー数は 8%増加しており、ページビューは減少（R5 年度：10,817→R6 年度：7,973）したものの、アクセスしたページ内で具体的に情報を収集するユーザーが増えていたことを表している。今年度は体験会を 8/7,8 に集中的に行い、また施設見学会・企業見学会などのイベントは行わなかったため、これらの情報を欲していたユーザーの獲得にいたらず、ページビューの減少に至った可能性が考えられる。一方で、エンゲージメントの総ユーザー数の増加については、問題意識を持ったユーザーが（神戸市内の介護事業者に限らず）本ホームページで情報収集を行う機会が増えていた可能性を示唆している。

※エンゲージメント：ページ訪問者によるクリックやスクロールなど、ページ内の情報を閲覧するための何らかのアクション

イベント名	+	↓ イベント数	総ユーザー数	アクティブユーザーあたりのイベント数
◇ すべての行を表示				
合計		23,072 27,572 との比較 ↓ -16.32%	2,328 2,136 との比較 ↑ 8.99%	9.92 12.95 との比較 ↓ -23.41%
1	<a href="#">page_view</a>			
	2024年4月1日～2025年3月10日	7,973	2,308	3.46
	2023年4月1日～2024年3月31日	10,817	2,126	5.10
	% change	-26.29%	8.56%	-32.27%
2	<a href="#">user_engagement</a>			
	2024年4月1日～2025年3月10日	6,072	1,633	3.75
	2023年4月1日～2024年3月31日	7,633	1,512	5.08
	% change	-20.45%	8%	-26.2%

また、ファイルダウンロードは「介護テクノロジー導入の手引き（介護事業者編）」の 145 が最も多く、次いで「介護テクノロジー導入の手引き（介護事業者編）チェックシート」であった。

「介護テクノロジー導入の手引き」は、介護事業者編／企業編、本編／チェックシートとも昨年度よりも増加しており、認知度が向上していることを示している。

合計	756	
介護テクノロジー導入の手引き（介護事業者編）	145	(59)
介護テクノロジー導入の手引き（介護事業者編）チェックシート	71	(17)
介護テクノロジー導入の手引き（企業編）	61	(19)
機器紹介シート（全ページ編）令和6年度版	58	(39)
介護テクノロジー導入の手引き（企業編）チェックシート	26	(5)
報告会&第9回交流会告知リーフレット	23	
機器紹介シート（川崎重工株式会社：Mapxus）	13	
機器紹介シート（ナースあい：キレルネ・ハケルネ）	11	
機器紹介シート（Tellus You Care合同会社：Tellus）	9	
機器紹介シート（株式会社いすら：移乗リフトEL-580）	9	

( )内は昨年度の値

昨年度もランク内であったファイルのみ記載

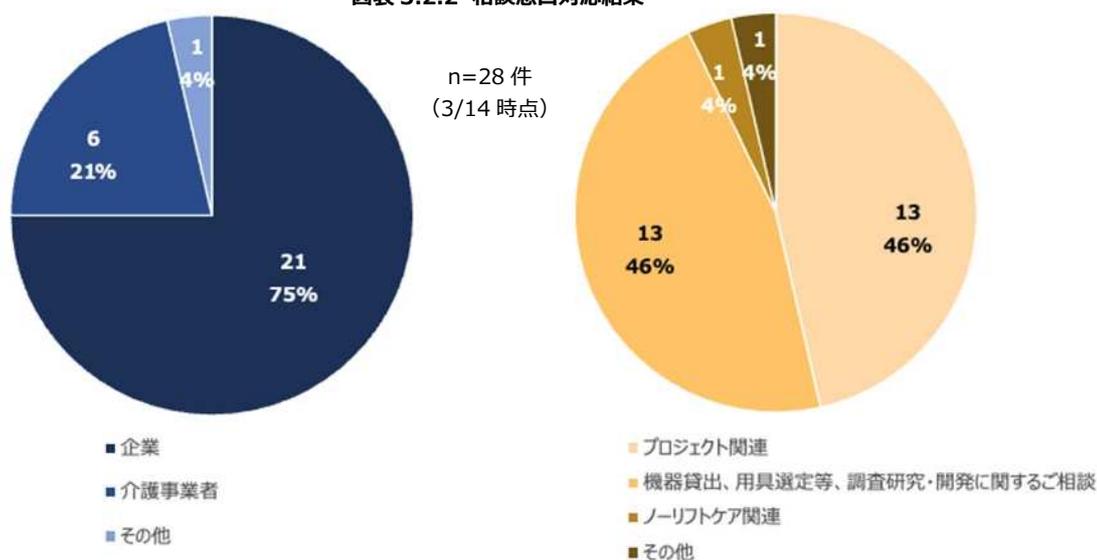
### 3.2 相談窓口対応実績

相談窓口の実施概要を図表 3.2.1 に示す。また、対応実績（令和 7 年 3 月 14 日時点）を図 3.2.2 に示す。

図表 3.2.1 相談窓口実施概要

項目	内容	備考
設置場所	一般社団法人 日本ノーリフト協会内 (神戸市兵庫区駅南通 5 丁目 1-2 健康ライフプラザ 5 階)	
窓口業務の対応日	月曜日から金曜日 (土日祝休み、但し事前予約にて土日祝対応可能)	
窓口業務の対応時間	9:00~17:00	
常設対応人員	2 名 (日本ノーリフト協会職員)	

図表 3.2.2 相談窓口対応結果



また図表 3.2.3 には相談者と相談内容を組み合わせた内訳を示す。問い合わせの 75%が企業からであり、また本業務の活動内容や機器貸出、調査研究・開発に関するものであった。今後の取り組みなどホームページで公開前の情報に関する問い合わせも多いため、こうした場合の対応ガイドラインを検討する必要がある。

図表 3.2.3 相談者と相談内容との組み合わせ内訳

	企業	介護事業者	個人/一般	行政	その他	合計
プロジェクト関連	10	3	0	0	0	13
機器貸出、用具選定等、調査研究・開発に関するご相談	11	2	0	0	0	13
ノーリフトケア関連	0	1	0	0	0	1
その他	0	0	0	0	1	1
合計	21	6	0	0	1	28

### 3.3 各種イベント（体験会・ワークショップ）実施結果

#### 3.3.1 実施概要

本業務で実施したイベントを下記に示す。

イベント開催にあたっては、テーマや開催方法について推進委員会にて議論を行い、詳細は神戸市との協議を経て決定した。

図表 3.3.1 令和6年度イベント一覧

	介護テクノロジー体験会	介護・医療関係者向けワークショップ	介護事業者と企業とのネットワーク構築交流会 ※詳細は「3.4介護事業者・企業間のネットワーク構築（交流会）実施結果」を参照	成果報告会 ※詳細は「3.8 成果報告会実施報告」を参照
開催日 (令和6年度)	8/7 (水) ,8 (木)	12/19 (木)	8/7 (水) ,8 (木) , 12/19 (木) ,2/21 (金)	2/21 (金)
目的	介護テクノロジー機器の周知と導入への意欲形成	介護テクノロジー導入にむけた学習・課題整理	介護事業者と企業との意見交換の活性化 および 現場ニーズに即したテクノロジー開発促進に資する基盤形成	本プロジェクトの成果および特別公演
参加対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市内の介護事業者</li> <li>神戸市在住の一般の方</li> <li>国内外を問わず介護テクノロジーの開発/販売企業</li> </ul>	同左	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸市内の介護事業者</li> <li>国内外を問わず介護テクノロジーの開発/販売企業</li> </ul>	本プロジェクトに興味のある方 (特に制限はなし)
当日参加者	8/7 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業者 24名</li> <li>病院 3名</li> <li>企業 23名</li> <li>大学・教育機関 4名</li> <li>一般・その他 14名</li> </ul>	介護事業者 13名  企業 16名	第6回 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業者 24名</li> <li>病院 3名</li> <li>企業 23名</li> <li>大学・教育機関 4名</li> <li>一般・その他 14名</li> </ul> 第7回 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業者 21名</li> <li>病院 4名</li> <li>企業 15名</li> <li>大学・教育機関 2名</li> <li>一般・その他 23名</li> </ul> 第8回 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護事業者 13名</li> <li>企業 16名</li> </ul> 第9回 35名	オンライン 27名 会場 35名
	計：95名		計：39名	
開催方式	展示会方式（体験会）、 講義方式（報告会） ※ディアージュ神戸にて	講義＋ワークショップ方式 ※No Lift Laboにて	ディスカッション方式 (他のイベント開催日に実施)	対面＋オンライン ※対面はNo Lift Laboにて
主なテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護テクノロジー機器の紹介・体験</li> <li>ニーズ調査結果の報告</li> <li>実証実験の報告</li> </ul>	介護テクノロジー導入・活用のためのケーススタディ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現場ニーズと導入支援方法に対する相互理解</li> <li>実証実験の促進に向けた信頼関係構築</li> </ul>	令和6年度活動報告

### 3.3.2 介護テクノロジー体験会実施結果

日時：令和6年8月7日（水）、8日（木）

場所：ディアージュ神戸（健康ライフプラザ5階）

参加者数：2日間累計 133名

7日 | 計 68名（介護事業者 24、病院 3、企業 23、大学・教育関係 4、一般・その他 14）

8日 | 計 65名（介護事業者 21、病院 4、企業 15、大学・教育関係 2、一般・その他 23）

#### 1) 開催目的

介護テクノロジーの体験をしていただくとともに、「介護事業者様の抱えている課題を解決できる機器を探す」、又は、「どのような機器がどのような課題を解決することができるのか知る」という機会とする。なお、介護事業者の取り組み発表を行うことで、企業ならびに今後医療・介護に関わる学生も対象とし、企業、介護・医療事業者、学生等様々な関係者視点の理解を深める機会とする。また、ニーズ調査及び開発企業との連携に基づく介護テクノロジーの開発支援における実証試験内容のデモを交えた報告を実施。

#### 2) 当日スケジュール

8月7日（水）

10：30～ 参加者受付

11：00～ 体験会・交流会／来賓者別室面談※

12：00～ 休憩／来賓者会場見学

13：00～ 体験会・交流会

16：00～ 終了

8月8日（木）

9：15～ 参加者受付

9：30～ 意見交換会

・挨拶（神戸市福祉局副局長 若杉 穰）

・ニーズ調査報告（一般社団法人日本ノーリフト協会 代表 保田淳子）

・意見交換①グループワーク

・意見交換②グループワーク

・川崎重工業様ロケーター説明、開発実証支援報告

11：00～ 体験会・交流会

12：00～ 休憩

13：00～ 体験会・交流会

16：00～ 終了

ディアージュ神戸 介護棟 (1階 汐の間)



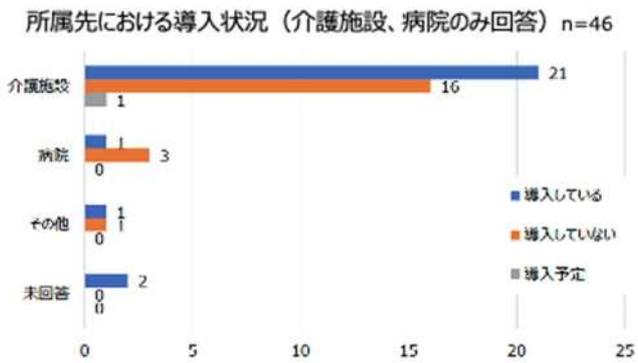
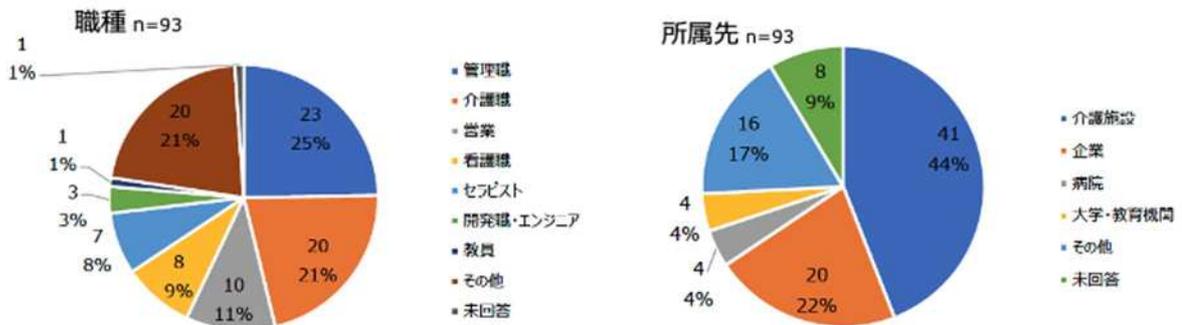
- 出展企業
- 施設の取組発表  
+  
開発支援報告



時間	8月7日(水)	8月8日(木)
8:30		事務局集合
9:00		受付開始(9:15)
9:30		交流会
10:00	事務局集合	・ニーズ調査結果についてグループワーク
10:30	受付開始	→グループごとに意見をまとめていただく
11:00	体験会	体験会
11:30	・ニーズ調査報告資料配布	・ニーズ調査報告資料配布
12:00	休憩	休憩
12:30		
13:00	体験会 ・ニーズ調査報告資料配布	体験会 ・ニーズ調査報告資料配布
13:30		
14:00		
14:30		
15:00		
15:30		
16:00	体験会終了・片付け	体験会終了・片付け
16:30		

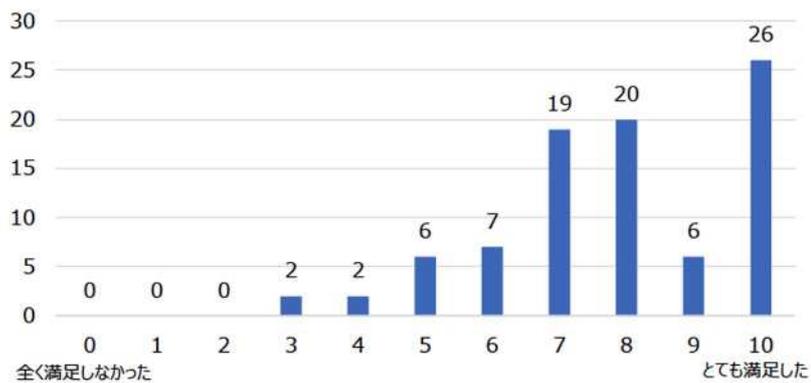


### 3) アンケート結果

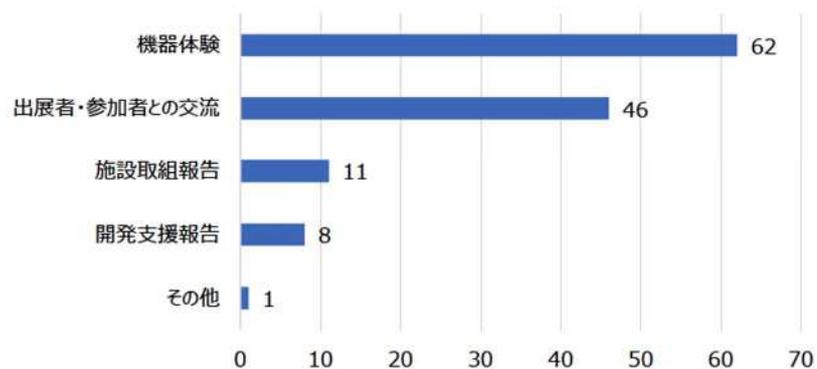


#### ■ 体験会・交流会について

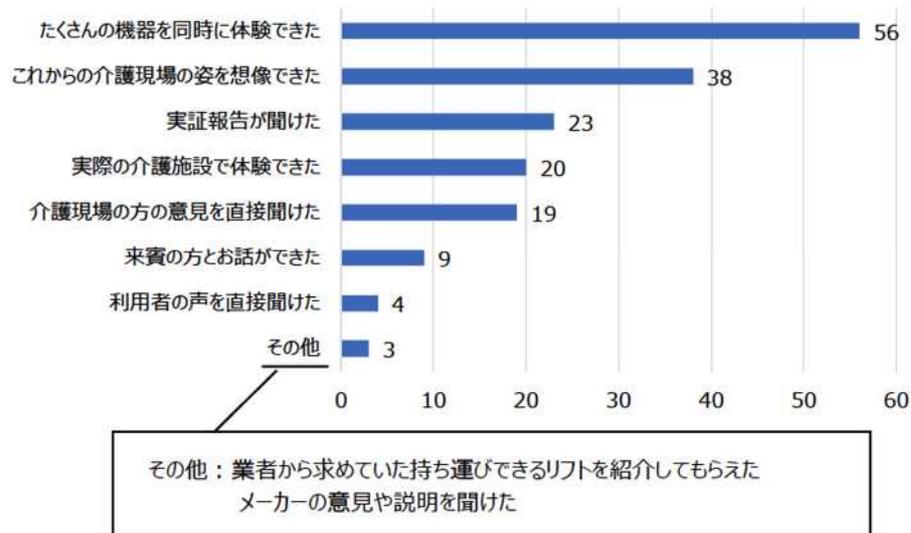
##### 1-1. 体験会・交流会の満足度（回答 88 名）



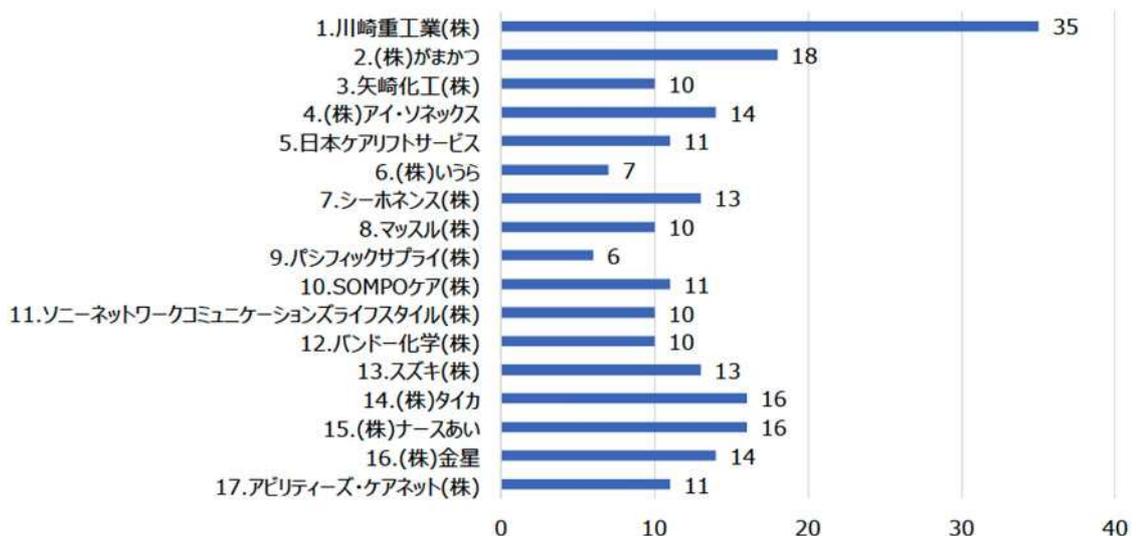
##### 1-2. 体験会・交流会に参加してよかったプログラム（複数回答可）（回答 87 名）



1-3. 体験会・交流会に参加して得られたメリット（複数回答可）（回答 87 名）



1-4. 出展企業において特に興味を持った機器、または導入してみたい機器（複数回答可）（回答 83 名）



本体験会に展示いただいて感じたことや、気づいた点（自由記述）（回答 8 名）

- ・ 現場での展示は少なからずリアリティがありイメージを持ちやすく感じられたと思う。
- ・ 在宅の事業者の来訪や在宅向けのテクノロジーの展示が少なかったことが残念だったが、通常の展示会に比べて、説明を熱心に聞いていただける方が多いと感じた。
- ・ 内覧会の時間（各企業がお互いの出展を皆さんの前でプレゼン・質疑応答する時間、来場が少ない最終日の1時間～1.5時間を活用）の設定。
- ・ 介護施設での開催は施設内部も見ることが出来るので非常に良かった。
- ・ 初めての参加のため、自分のブースで精一杯だったが、参加企業者さまや御協会の皆様とももう少し交流させていただければよかったなと感じた。
- ・ 実際の個室での展示は導入の想定などがしやすく紹介しやすかった。
- ・ 展示場所を施設内だったことで、来場された方にとってイメージしやすい状況が作れたのでとても良かった。また、今までマンパワーで介助していたところを道具を活用して出来るので、反応はとても良かった。
- ・ 休憩室が十分でなく、休憩時間時にも来場されている方がおられたので、対応しにくい点があった。

今後の本業務へ期待することや、意見（自由記述）（回答 8 名）

- ・ 来客が企業では無く、より多くの施設関係者に来ていただければ大変ありがたい。
- ・ 展示会以外で具体的にどのようなサポートがいただけるのかがまだ理解できていない状況のため、今後そのような点でも、サポートした案件の成功事例なども情報発信等いただけるとありがたい。
- ・ ディアージュ神戸様にお力添え頂き、実際の介護現場で開催できたことが何より画期的であったと思う。
- ・ 今後も同様のプロジェクトの実施を希望。
- ・ 弊社の場合、介護現場の方のヒアリングに加え、ものづくり側の皆さんのお困りごとを拝聴できればお役に立てることがあったかなと思う。（医療者でもあるため）そんな機会があれば参加したい。
- ・ また、約 10 年前ほどに神戸市のものでづくりの団体から看護協会を通じて医療者からのアイデア募集と困りごと募集があり参加したことがある。そのような機会があればよいなあと思う。
- ・ 特になし。
- ・ 難しいかもしれないが、また施設を使用しての展示ができるとありがたい。
- ・ 今後は企業間のみならず現場の方と多く交流させて頂ければより良いと考える。

意見交換会について、意見（自由記述）（回答 8 名）

- ・ 周囲の声（雑音）が大きく殆ど意見を聞き取れなかった。折角の機会でしたが 1 回目の意見交換会では施設関係の方は不在でした。（2 回目は 1 名居られました）。出来れば 1 グループで企業関係者・施設関係者が同等の人数での開催を期待します。
- ・ 介護事業者さまの参加が少なく、現場のニーズの汲み取りという点では難しい状況でしたが、通常接点がない病院関係の人の話を聞くことができ、現場にテクノロジーを導入する際の課題を実体験からお話いただけたことは良かった。
- ・ 介護機器の定量評価（導入前の効果の見える化）はニーズが高いことが分かった。
- ・ 他企業の意見や介護事業者の方の考えが聞けて良かった。
- ・ このような機会が多くあればよいと思った。（いろいろな分野や内容の気付きがあったため）
- ・ 現場の方の意見がなかなか聞き出せなかった。（出展企業以外の企業が多かった）
- ・ 企業と施設・介護職員の人数バランスが悪かった。2 名以上参加の企業は代表者 1 名にするなどしてバランスをとってもいいのではないかと思った。
- ・ 企業と現場のバランスを調整して欲しい。（今回は企業側が多いように思われました）

今後意見交換してみたい内容や企業、介護事業者に聞いてみたい内容。また、今回の意見交換で聞けなかったこと（自由記述）（回答 8 名）

- ・ 介護テクノロジーについて、より多くの施設（従来からノーリフトに対して積極的な施設では無く）の意見を、この様な意見交換会で聞いてみたい。
- ・ 在宅介護事業者の意見をもう少し聞ければよかった。
- ・ 弊社からご提案したプラットフォームの具体的な共有方法を機器メーカーさんの意見も取り入れながら開発を促進したい。
- ・ 介護事業所での一番必要だと考える福祉機器を聞きたい。
- ・ 弊社では医療現場とものでづくりの間の通訳的な役割を今後進めていければと思っている。看工連携、介工連携でお困りごとがないかお聞きしたい。
- ・ 機器導入後のメーカーに求めること
- ・ 特になし
- ・ 防災に関する困りごとがあれば聞いてみたい。

### 3.3.3 ワークショップ会実施結果

日時：令和6年12月19日（水）13：30～16：30

場所：NO LIFT LABO（健康ライフプラザ5階）

事前申込者数：介護事業者 11 施設（23名）、企業 11 社（19名）、

参加者数：介護事業者 12 施設（22名）、企業 9 社（15名）、一般 1名

出展企業：9 社（15名）

#### 1) 開催目的

ワークショップを通じて、施設環境・コスト面での施設課題を洗い出し、ワークショップで実際の失敗/成功例を共有し、解決法を探索する。また、導入に向けた計画方法や、費用対効果の出し方を提案し、今後自施設で課題整理を行い、企業がそのサポートを行えるよう支援を行う。交流会では、介護・医療事業者と開発・販売企業双方の理解を深める機会とする。

#### 2) 当日スケジュール

13：00～ 参加者受付

13：30～ オリエンテーション

13：35～ 催者挨拶（神戸市企画調整局医療産業都市部（誘致・産業化担当）課長 須田保之）

13：40～ ワークショップ「施設課題からみるノーリフトと介護テクノロジー～コスト・環境・教育～」

（一般社団法人日本ノーリフト協会 代表理事 保田淳子）

15：15～ 交流会（名刺交換、自由歓談）

15：45 終了

#### 3) ワークショップ進行

はじめに事務局保田より「介護テクノロジー導入促進の手引き」について紹介し、その後、参加者は下記3つのテーマでグループワークを実施。個人ワーク/介護施設ごと・企業ごとのグループワーク/施設・企業をミックスしたグループワークを段階的に行い、参加者同士で課題の深掘りを行なった。

ワーク①：コスト面の壁

ワーク②：環境面の壁

ワーク③：教育・体制面の壁

#### 4) ワークショップで挙げた代表的な意見

ワーク①：コスト面の壁

##### 介護施設

- ・車椅子1台で50万円は高すぎる
- ・助成金・補助金のタイミングが難しく、もっと分かりやすくしてほしい
- ・車椅子のサブスクリプションがあれば良い
- ・投資することで人員確保につながるのであれば高くても問題なし

##### 病院

- ・安価で効果的なものが求められる（ベッド数88床）
- ・新しい製品が次々出てくるため、導入タイミングが難しい
- ・経営上の優先順位によって予算の確保が困難

## 企業

- ・同等の他社製品との比較が必要
- ・導入で作業が減るなら数万円まで許容可能
- ・費用対効果の視点（例：職員 1 名が休むと考えると 100 万円の価値がある）

## ワーク②：環境面の壁

### 介護施設

- ・無駄なスペースを取る機器は効率が悪い
- ・施設では複数人で使うことを考えると、床材や重さの影響で移動が億劫になる

### 病院

- ・多床室ではベッド間のスペースが狭く、新しい機器の配置が難しい
- ・物が増えて置き場がない
- ・電子カルテや機器のコードが多すぎて混乱を招く
- ・効率が悪いものは導入しづらい

### 企業

- ・設備が古く、最新の機器と合わない
- ・スペースが狭く、新しい機器を設置しづらい
- ・Wi-Fi 環境が整備されていない
- ・利用者の衣類や更衣の困難さが課題（関節可動域の制限や皮膚トラブルなど）

## ワーク③：教育・体制面の壁

### 介護施設

- ・外国人職員でも使えるものではないと意味がない
- ・難しすぎると、誰も使いこなせず教育が困難になる

### 病院

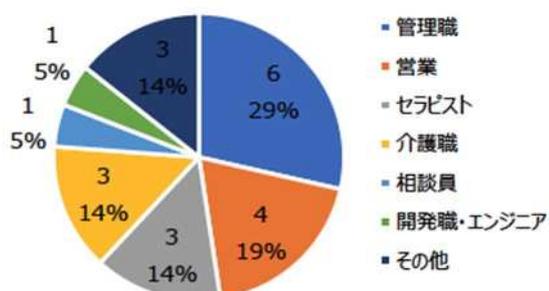
- ・知識・技術の伝達が困難（世代間のギャップ）
- ・身体を動かすことが基本と考えてしまい、新技術の導入に抵抗がある
- ・PC・スマホ・タブレットが苦手なスタッフも多い
- ・導入時にスタッフを引っ張るリーダーが不足（反対意見に流されやすい）

### 企業

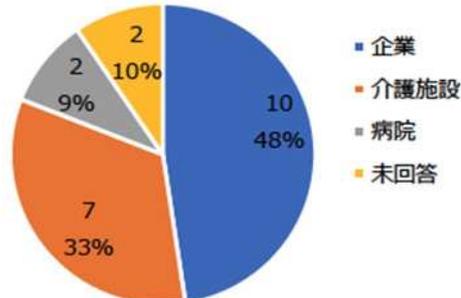
- ・管理職が忙しすぎて教育に手が回らない
- ・他に研修が多く、新技術導入の研修時間が取れない
- ・計画的な導入が進まない
- ・そもそも「今のままで良い」と上層部が考えている

## 5) アンケート結果

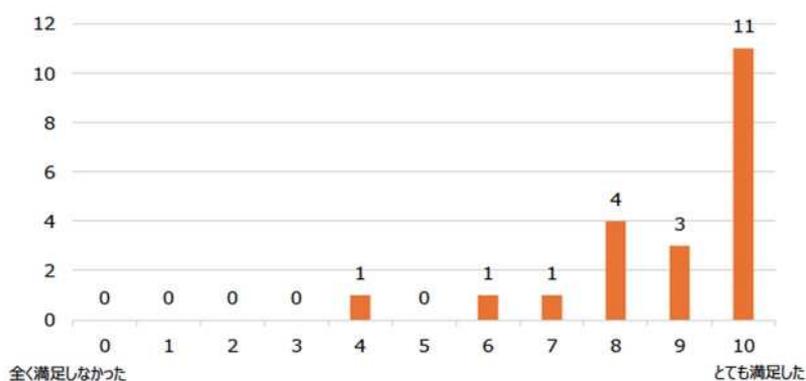
■ 職種 (回答 21 名)



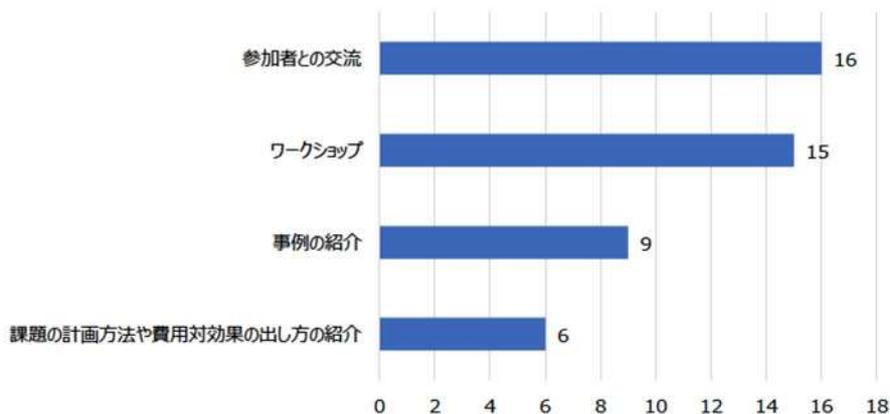
■ 所属先 (回答 21 名)



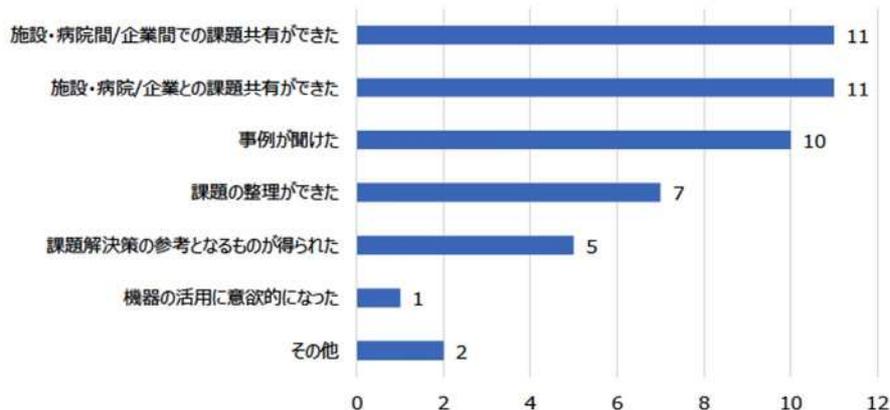
■ 交流会の満足度 (回答数 21 名)



■ 交流会に参加してよかったプログラム (複数回答可) (回答者 21 名)



■ 交流会に参加して得られたメリット (複数回答可) (回答者 21 名)



今後、本業務に期待するイベントや、支援（自由記述）（回答者 9 名）

- ・ 今回のような内容が参加者以外にも伝えられる仕組みを検討。
- ・ 引き続き、こういった交流の場の提供。
- ・ 機器導入によるコストカットはどのくらいになるか具体的なデータ。例えばこの機器を導入すると人員は何人くらい削減できるといった具体的な数値を知りたい。
- ・ 体験会、研修会頻度あげて欲しい。
- ・ 各事業所や企業は常日頃から課題を考えていると思うため、企業が自社製品やサービスをプレゼンテーションしていくピッチの時間、その後それに對する質疑応答の時間などを設けていただくと、さらに導入推進に繋がると思う。せっかくたくさんの参加者がいたのに名刺交換する時間も短く、交流が一部となってしまったのが残念だった。
- ・ 企業の方との交流は視点が広がり、私の勝手な限界を超えて下さるので、交流会を続けていただき、たくさんの方とお話したい。
- ・ 今後も参加企業や施設が増えると思うので交流する機会は作ってもらいたい。課題の共有は互いの距離を近く感じられたので相談しやすくなったと思う。
- ・ 今回のワークショップは楽しく面白く交流を深め、課題の共有化等勉強できることが多かったため、また開催してほしいと思います。
- ・ 介護施設／機器メーカーを繋ぐ取り組み。

## 6) 当日の様子



### 3.4 介護事業者・企業間のネットワーク構築（交流会）実施結果

介護テクノロジーの普及に資する介護事業者・企業間のネットワーク構築を行うべく、下記に示す交流会を実施した。集客や運営の効率化を図るため、3.3章に示したイベント開催日にイベント参加者を対象として実施した。

図表 3.4 令和6年度交流会概要

		第6回	第7回	第8回	第9回
開催日		介護テクノロジー体験会 開催時 (8/7)	介護テクノロジー体験会 開催時 (8/8)	ワークショップ開催時 (11/22)	成果報告会 開催時 (3/4)
会場		ディアージュ神戸	ディアージュ神戸	No Lift Labo	No Lift Labo
参加者数	介護事業者・ 病院	27名	25名	13名	35名
	企業	23名	15名	16名	
	その他 (一般、大学等)	18名	25名	1名	
主な内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>現在抱えている施設課題、企業に求める支援</li> <li>導入失敗事例と原因等</li> </ul>	同左	ワークショップ終了後の自由歓談、名刺交換	報告会・特別講演を踏まえた意見交換

交流会は昨年度と同様に、参加者へ何らかのアウトプットを求めることはせず、現状の課題への相互理解を行うことを主な目的として、主に介護事業者同士、企業同士、介護事業者と企業での意見交換を行った。

#### 当日の様子



### 3.5 R3~6 年度本業務参加者への継続フォロー実施結果

令和3年度以降の本業務参加者への継続フォローとして、機器貸出を行った施設へその後の導入状況のヒアリングを行なった。集計結果を図表 3.5.1 に示す。

図表 3.5.1 R3,4 年度参加者のその後の導入状況

2025.3/14 時点 (空欄は未回答箇所)

No.	施設名	プロジェクト参加開始年度	R3~R6までの介護テクノロジー購入有無	購入年度	貸出年度 貸出機器/独自で購入	企業名	購入機器名	機器分類
1	特別養護老人ホーム 六甲の館	R3	購入	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社アイン	ミスト・バス	入浴
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社シーホネンス	リフト	移乗
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	神戸ロボケアセンター	歩行支援等サイバーダイナHAL	移乗
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社アール・ティ・シー	とろみチェック機器	食事
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社がまかつ	排泄動作支援機器	排泄
			購入	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社Aikomi	認知症対応システム	認知症
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社神戸デジタル・ラボ	TUNEGRID WORKS	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社QuadLab	NOLIFTASSESSMENT APP	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	合資会社リール企画	姿勢診断	業務支援
			購入	令和4年度	本プロジェクトで貸出	アビリティーズ・ケアネット株式会社	オミ・ピスタ	認知症
			なし	令和4年度	本プロジェクトで貸出	株式会社トータルブレインケア	脳体カトレナー-CogEvo	認知症
なし	令和4年度	本プロジェクトで貸出	プロジェクトイブシロン	イブシロンシステム	認知症			
なし	令和6年度	本プロジェクトで貸出	株式会社アベックス西日本	とろみ自動調理サーバー	食事			
2	特別養護老人ホーム塩屋さくら苑	R3	購入	令和3年度	独自で貸出/購入	パラマウントベッド株式会社	眠りスキャン	
			購入	令和4年度	独自で貸出/購入	パラマウントベッド株式会社	眠りスキャン	
			購入	令和5年度	独自で貸出/購入	パラマウントベッド株式会社	眠りスキャン	
			購入	令和5年度	独自で貸出/購入		床走行式電動介護リフト	
3	介護付有料老人ホーム デイアージュ神戸	R3	なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社シーホネンス	リフト	移乗
			購入	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社FUJI	Hug	移乗
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社神戸デジタル・ラボ	TUNEGRID WORKS	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	合資会社リール企画	姿勢診断	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	ジェイテクト	介助アシストスーツ	移乗
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	神戸ロボケアセンター	歩行支援等 サイバーダイナHAL	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社QuadLab	NOLIFTASSESSMENT APP	業務支援
			なし	令和3年度	本プロジェクトで貸出	株式会社HCI	自動配送機器	業務支援
			なし	令和4年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社いすら	リフト付きシャワーキヤー 据置型 バック	入浴
			なし	令和4年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社ハイレックスコーポレーション		入浴
			購入	令和4年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社FUJI	Hug	移乗
			なし	令和5年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社HCI	CC1	業務支援
			購入	令和5年度	独自で貸出/購入	パラマウントベッド株式会社	眠りスキャン 眠りスキャンアイ	見守り
購入	令和6年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社金星	ピュアット (UFB発生機)	入浴			
購入	令和6年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社ウェル・ネット研究所	SOEL MX-Air (MX-AR-101)	移乗			
4	コウダイケアサービス株式会社	R3	なし	—	—	—	—	
5	特別養護老人ホーム真愛あたらホーム	R3	なし	—	—	—	—	
6	特別養護老人ホーム八多の里	R3	購入					
7	介護付有料老人ホーム コンフォートヒルズ六甲	R3	なし	令和3年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社アルコ・イーエックス	センサー	見守り
			なし	令和3年度	本プロジェクトにて貸出	マッスル株式会社	リフト等	移乗
			なし	令和3年度	本プロジェクトにて貸出	株式会社トータルブレインケア	認知症予防トレーニング	認知症
			なし	令和3年度	独自で貸出/購入	コニカミルタ株式会社	見守り	見守り
			なし	令和3年度	独自で貸出	エコピスタ株式会社	見守り	見守り
			購入	令和4年度	貸出なく独自で購入	エコピスタ株式会社	ライプズムナビ + Dr. LAN-MS-BS4	見守り
			購入	令和4年度	貸出なく独自で購入	株式会社いすら	移動式リフトEL-580	移乗
購入検討中	令和6年度	独自で貸出/購入	豊田通商株式会社	泡シャワー KINUAMI U	入浴支援			
8	特別養護老人ホーム向陽荘	R4	購入			可動式のリフト		
9	特別養護老人ホーム サンホーム神戸西	R4	購入	令和5年度	独自で貸出/購入	株式会社いすら	床走行式リフト	移乗
10	特別養護老人ホームさつき園	R3						
11	特別養護老人ホーム桜ホーム西神	R3	購入	令和5年度	独自で貸出/購入	未回答	床走行リフト	移乗
w	特別養護老人ホーム山手さくら苑	R3						
13	モーツァルト兵庫駅前	R3						
14	特別養護老人ホームうみのほしルルド	R3	購入	令和4年度	独自で貸出/購入	株式会社バイオシルバー	見守りセンサー	見守り
15	KOBE須磨さくらえん	R3						
16	翔月庵 神戸大開	R4	なし	令和4年度	本プロジェクトで貸出	株式会社平プロモート	Kupu (クプ)	業務支援
17	特別養護老人ホーム オービーホーム高丸	R4	購入	令和5年度	独自で貸出/購入	株式会社いすら	床走行リフト	移乗/移動
			購入	令和6年度	独自で貸出/購入	株式会社いすら	床走行リフト	移乗/移動

No.	施設名	プロジェクト 参加 開始年度	R3～R6まで の介護テクノロ ジー購入有無	購入年度	貸出年度 貸出機器/ 独自で購入	企業名	購入機器名	機器分類
18	介護老人保健施設すばる六甲	R4	なし					
19	まんてん堂たるみ神陵台	R4						
20	特別養護老人ホーム永栄園	R4						
21	みどり病院	R4						
22	介護老人福祉施設ぼー愛	R3	なし	令和5年度	独自で貸出	サラヤ株式会社	シャワートロリー「Carevo」	入浴
23	特別養護老人ホーム 田カミノ	R3	購入	令和4年度	独自で貸出/購入		ベッド固定式リフト	移乗
24	高齢者ケアセンターひょうご	R4						
25	特別養護老人ホームしあわせの家	R4						
26	社会福祉法人報恩会	R4	なし	令和6年度	独自で貸出	未回答	アシストスーツ	
27	カネディアンヒル介護老人保健施設	R3	購入	令和5年度	独自で貸出/販売	ラックヘルスケア株式会社	ライザーベース	移乗/移動
28	グループホーム陽だまり	R5	なし	令和6年度	独自で貸出	アビリティーズ・ケアネット株式会社	床走行リフト	移乗/移動
29	株式会社サボークラブゆう	R5	なし					
30	地域密着型介護老人福祉施設 梅香園	R5						
31	特別養護老人ホーム大慈智音園	R5						
32	介護老人保健施設ドリームヒルズ滝山	R5						
33	ソーシャルコート神戸北	R5						
34	特別養護老人ホームブルーバレイ	R5						
35	社会福祉法人すまいる厚生会	R5						
36	特別養護老人ホーム愛の園シオンの丘	R5	購入	令和4年度		未回答	床走行リフト	移乗/移動
37	ふれあいホーム	R5						
38	訪問看護ステーションきらり	R5						
39	特別養護老人ホーム 神戸まどか園	R5						
40	特別養護老人ホーム岩岡の郷	R5						
41	小原病院	R5	なし					
42	介護老人保健施設ハーベスピア	R5						
43	住宅型有料老人ホーム シャローム神戸有野台	R5						
44	神港園サニークラブ白川	R5						
45	特別養護老人ホーム本多聞ケアホーム	R6	購入	令和6年度		株式会社ウェル・ネット研究所	リフト	移乗/移動
46	特別養護老人ホーム かもこの風	R6						
47	株式会社アクティブライフ	R6						
48	一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団	R6						
49	サテライト特養ももまやまだい	R6						
50	アネックス湊川ホスピタル	R6	なし					
51	宮地病院	R6						
52	小規模特別養護老人ホーム 真愛くもちホーム	R6						
53	老人保健施設あずさ	R6	なし					
54	株式会社エルセンケア	R6						
55	夢野老人ホーム	R6						
56	ファミリーフォースピース神戸垂水ハウス	R6						
57	西記念ポートアイランドハビリテーション病院	R6						

これをもとに、各年度における機器貸出と購入件数を集計した結果を図表 3.5.2 に示す。本業務での機器貸出以外に、施設が独自で体験や貸出などを行い購入に至っているケースもあることが判明した。独自で体験や貸出を行う機器は見守り支援（7 件）・移乗支援（6 件）が多くを占めている。

なお、購入に至る割合（購入件数÷貸出件数）は、本業務活動を通じた機器貸出よりも、施設が独自に体験や貸出を行なったケースの方が大きく上回っていた。これは、本業務活動を通じた貸出が施設にとって「リスクの少ないお試し機会」として捉えられた結果、必ずしも購入の本命ではない機器を貸出希望する傾向が生じたためと考えられる。

図表 3.5.2 機器分類ごとの貸出結果集計

プロジェクト活動を通じた機器貸出

( )内は購入に至った件数

	見守り支援	移乗支援	入浴支援	排泄支援	食事支援	リハビリ支援	業務支援	認知症予防	その他	合計
R3	3 (0)	11 (1)	2 (1)	3 (0)	1 (0)	3 (0)	8 (0)	3 (1)		34 (3)
R4	3 (0)	12 (1)	3 (0)	1 (0)			1 (0)	3 (1)		23 (2)
R5			2 (0)				1 (0)		1 (0)	4 (0)
R6		1 (1)	1 (1)		1 (0)		0 (0)			3 (2)
合計	6 (0)	24 (3)	8 (2)	4 (0)	2 (0)	3 (0)	10 (0)	6 (2)	1 (0)	64 (7)

購入件数÷総貸出件数 = 0.11

施設が独自に行なった機器体験・貸出

( )内は購入に至った件数

	見守り支援	移乗支援	入浴支援	排泄支援	食事支援	リハビリ支援	業務支援	認知症予防	その他	合計
R3	3 (1)	2 (0)							1 (1)	6 (2)
R4	2 (2)	1 (1)								3 (3)
R5	2 (2)		1 (1)							3 (3)
R6		3 (1)	1 (0)							4 (1)
合計	7 (5)	6 (2)	2 (1)						1 (1)	16 (9)

購入件数÷総貸出件数 = 0.56

一方、貸出の全体数でなく、導入に至った機器のみに着目して、体験貸出の実施状況を整理した結果を図表 3.5.3 に示す。これによると、本業務での貸出、または介護事業者が独自で手配した貸出のいずれかが行われているケースが 83%を占めていることが明らかとなった。

図表 3.5.3 導入に至った機器の体験貸出の実施状況

購入に至った機器の体験貸出実施率

		見守り支援	移乗支援	入浴支援	排泄支援	食事支援	リハビリ支援	業務支援	認知症予防	その他	合計
R3	購入件数	1	1	1					1		4
	②プログラム外で貸出		1	1					1		3
	③独自に貸出	1									1
	貸出なしで購入										0
	回答なし										0
R4	購入件数	3	4						1		8
	②プログラム外で貸出		1						1		2
	③独自に貸出	2	1								3
	貸出なしで購入	1	1								2
	回答なし		1								1
R5	購入件数	2	5	1							8
	②プログラム外で貸出										0
	③独自に貸出	2	5	1							8
	貸出なしで購入										0
	回答なし										0
R6	購入件数		3	1							4
	②プログラム外で貸出		1	1							2
	③独自に貸出		1								1
	貸出なしで購入										0
	回答なし		1								1
合計	①購入件数	6	13	3	0	0	0	0	2	0	24
	②プログラム外で貸出	0	3	2	0	0	0	0	2	0	7
	③独自に貸出	5	7	1	0	0	0	0	0	0	13
	貸出なしで購入	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	回答なし	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
貸出実施率 (②+③)／①		83%	77%	100%	-	-	-	-	100%	-	83%

備考

R3,4 業務では体験貸出をイベントとして積極的に実施したが、R5,6 業務では要望のあった事案のみ個別に実施

### 3.6 「介護テクノロジー導入促進の手引き」改定報告

#### 3.6.1 手引き改定の概要

##### (1) 手引きの目的

介護テクノロジー導入促進の手引き（以下、「手引き」と称す）は、「介護テクノロジーの導入の仕方が分からない」「より効果的な導入方法を知りたい」という介護事業者に向けて、極力手間をかけることなく導入を行っていただくために、「神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクト」で得た知見をもとに、令和4年度業務にて手順をまとめたものであり、本業務のホームページにて公開している。

手引きの対象範囲は、介護事業者における介護テクノロジーの導入のための取り組み課題の選定からその効果の振り返りまでとしている。



図表 3.6.1 手引きの対象範囲

##### (2) 手引きの構成

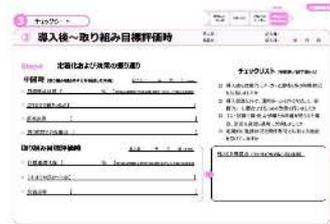
手引きは、介護テクノロジーの導入を行う介護事業者と、それを提供する企業に向けて、それぞれ下記のように構成されている。

###### a) 介護事業者編

- ・ 課題に応じて4つのコースを設定
- ・ 単発的な導入にとどまらないよう、継続的な改善を促すサイクルを提示
- ・ 目標設定を行えるよう、テンプレートを掲載
- ・ セルフチェックシートへ記入することで、事業所内での情報共有ツールを巻末に添付



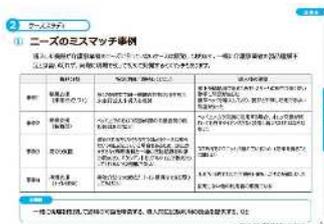
各コースの概要・  
コースごとの目標設定テンプレート



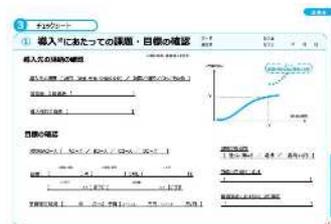
導入前/後など各フェーズにおけるセルフチェックシート

###### b) 介護事業者編

- ・ 機器の販売・納入で終わらず、介護事業者の課題解決を支援できるよう、介護事業者から寄せられた意見をケーススタディとして編纂
- ・ 導入～定着の支援が行えるよう、「支援してほしいこと」をチェックリスト化



介護事業者から寄せられた意見をもとにした  
ケーススタディ集



導入支援を行うためのセルフチェックシート

### (3) プロジェクト活動を踏まえた手引きの改定要件

本業務では、介護テクノロジーの導入促進を目的として、開発実証支援やニーズ調査、交流会を通じて得られた知見を「介護テクノロジー導入促進の手引き」に反映する形で改定を進めている。令和6年度のプロジェクト活動を踏まえ、以下の改定要件が整理された。

#### ① 導入前の説明不足による失敗事例の多発

導入前の説明や研修が不十分であったことが原因で、機器が十分に活用されず、導入が失敗に終わるケースが多く報告された。このため、手引きには以下の点を新たに追加する。

- ・ 導入前の説明会・研修の必須化：事前説明の重要性を強調し、介護事業者が確実に理解できる仕組みを構築。
- ・ チェックリストの作成：説明会や研修で確認すべきポイントを明確化し、標準化を図る。

#### ② 介護現場から寄せられた懸念点や工夫の共有

交流会や見学会を通じて、介護事業者から導入に際しての具体的な懸念や、成功・失敗事例が多数寄せられた。これを踏まえ、以下の改定を行う。

- ・ 成功・失敗事例の掲載：介護現場での実際の導入経験を記録し、他の事業者が参考にできるようにする。
- ・ 実践的な知識や工夫の反映：導入時の工夫点を整理し、チェックリストに組み込むことで、円滑な運用を支援。

#### ③ 企業と介護事業者の対話機会の拡充

介護事業者と企業の間には十分な対話の機会がないことで、現場ニーズと開発企業の提供する技術のミスマッチが生じるケースが確認された。これを改善するため、手引きには以下の要素を追加する。

- ・ チェックリストの共通化：企業と介護事業者が共通の認識を持ち、導入プロセスを円滑に進めるための標準ガイドを作成。
- ・ 「テクノロジーで代用すべきでないケアサービス」の明記：介護の本質的な価値を維持しつつ、テクノロジーの活用範囲を適切に設定するための指針を示す。

#### ④ 開発実証支援の成果を踏まえた要件整理

開発実証支援を通じて、開発実証の円滑な実施に必要な要件が明確化された。これを基に、手引きの改定を行う。

- ・ 開発実証実施の手順追加：実証の準備段階から評価・改善までのプロセスを明文化。
- ・ 実施時のポイントをチェックリスト化：関係者が統一した基準で実証を進められるよう、実施の要点を整理。

図表 3.6.2 プロジェクト活動を踏まえた手引きの主な改定要件

	プロジェクト活動を通じて得られた知見	関連するプロジェクト活動	手引き反映事項
1	「事前の説明不足」が導入の失敗を引き起こした事例が多数あることが判明した	ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 導入前の説明会・研修を実施することを必須にする</li> <li>・ 説明会実施にあたってのポイントをチェックリスト化</li> </ul>
2	導入にあたっての懸念点、工夫した点などに関する介護現場の生の声が寄せられた	交流会・見学会など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成功事例や失敗事例などのトピックを、参考情報として掲載</li> <li>・ 実践的な知識や工夫などはチェックリストへ反映</li> </ul>
3	企業には、現場ニーズの理解に向けた介護事業者との対話が一層求められていることが露呈した	交流会・体験会、ニーズ調査など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業が介護事業者と一緒にテクノロジー導入を行えるよう、チェックリストを共通化</li> <li>・ 「テクノロジーで代用すべきでないケアサービス」として挙げた意見を参考紹介</li> </ul>
4	開発実証支援を通じて円滑な実施に向けた要件が整理された	介護テクノロジーの開発支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 開発実証開催に向けた手順を追加</li> <li>・ 実施にあたってのポイントをチェックリスト化</li> </ul>

### 3.6.2 反映結果

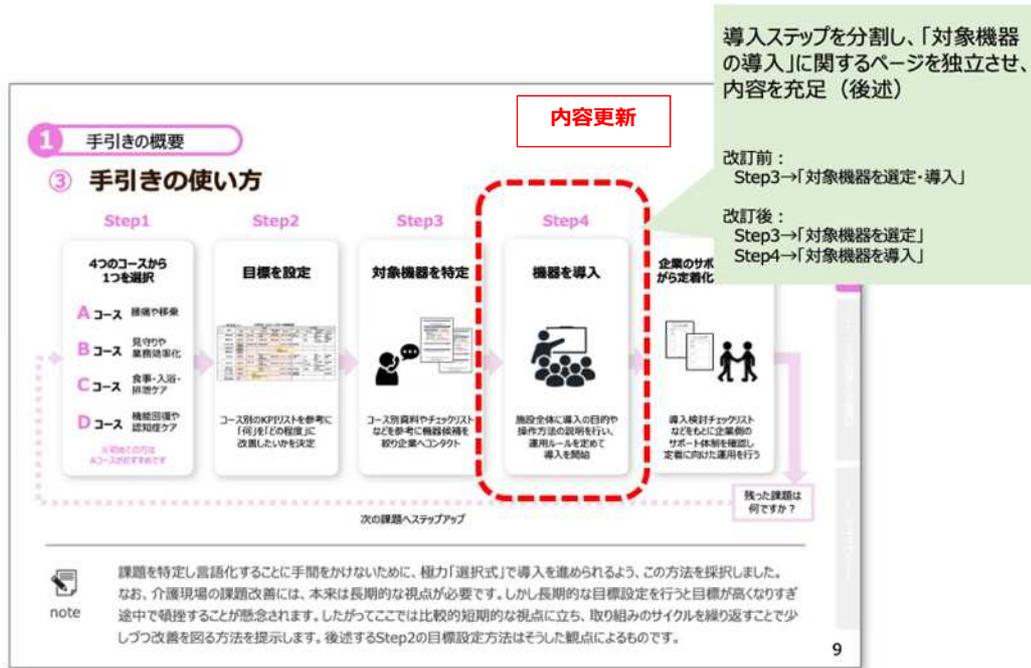
#### (1) 導入プロセスの詳細化（介護事業者編）

従来、導入プロセスの説明は「Step3：対象機器を選定・導入」と一括で扱っていたが、今回の改定では「選定」と「導入」の工程を明確に分割し、以下のように整理した。

改訂前：「Step3：対象機器を選定・導入」

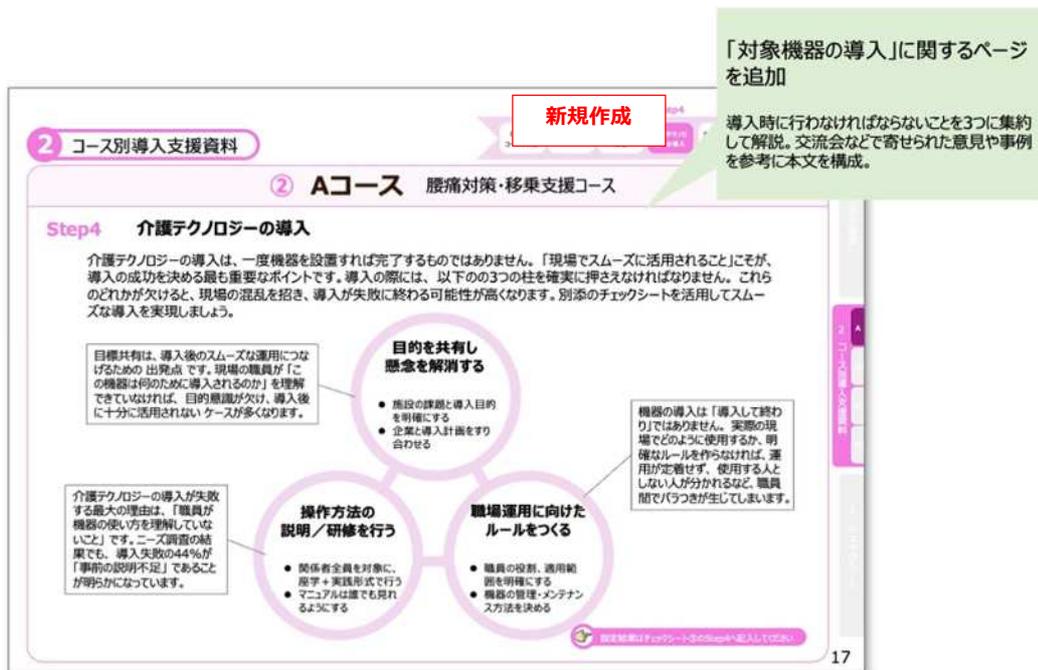
改訂後：「Step3：対象機器を選定」「Step4：対象機器を導入」

この変更により、導入の各フェーズでの検討事項を明確にし、よりスムーズな機器導入が可能となるよう配慮した。



#### (2) 「介護テクノロジーの導入」ページの新設（介護事業者編）

前述の結果を受け、「介護テクノロジーの導入」ページを新設した。導入時に行うべき事項を3つのポイントに集約し、交流会で寄せられた意見や成功・失敗事例を反映した。



### (3) 「定着化および効果の振り返り」ページの加筆（介護事業者編）

(2) に伴い、導入に関する記述が独立したため、本ページから除外した。また、定着化や効果の振り返りについては軽視されがちなため、このステップを行わない場合のリスクを記述することで実施を促すこととした（赤字部）。

2 コース別導入支援資料

内容更新 ※赤字部を追加・変更

2 Aコース 腰痛対策・移乗支援コース

Step5 定着化および効果の振り返り

導入後のフォローアップが不十分だと、機器が十分に活用されず、結果として現場の負担軽減につながらない可能性があります。定着化のためには、定期的な振り返りと評価を行い、必要に応じて運用を見直すことが重要です。別添のチェックシートをもとに実施してください。

Step2で設定した目標達成期間

導入開始 中間時 目標達成期間終了時

導入時に関する記述を前ページへ集約

- 当初立てた目標はそのまま達成できそうか
- 運用ルールは守られているか
- 改善すべき点はあるか

この振り返りを怠ると...

- 機器が適切に活用されず、放置されるリスクが高まる
- 運用ルールが徹底されず、バラつきが生じる
- 早期に改善できる課題が放置され、問題が大きくなる

- 目標はどの程度達成されたか
- 達成しなかった場合の原因は何か
- 次に取り組むべき課題は何か

この振り返りを怠ると...

- 導入効果が不明確なままになり、次の改善策が打てなくなる
- 改善点が見つからず、機器の活用が中途半端に終わる
- 次のテクノロジー導入に対する現場の抵抗感が強まる

18

### (4) コラムページの追加（介護事業者編／企業編）

導入時の具体的な課題に対応するため、以下の3つのテーマでコラムを作成した。

- ・ 導入に抵抗感を示す方への対処方法
- ・ 導入費を将来投資と見ることの重要性
- ・ 「事前の説明不足」が失敗を招くリスク

これらの内容は、実際の介護現場でよく直面する問題を取り上げ、解決策を提示することを目的とした。

（企業編も同様に掲載）

内容更新

コラム① 「変わるって、案外楽しい！」～介護テクノロジーと共に歩む現場ス

新旧が交差する現場—ベテランと若手、そして外国人スタッフの奮闘記

介護現場に新たな風が吹くと、どうしても「昔ながらのやり方」が根強く残るものです。長い年月、経験に裏打ちされたベテラン職員は、「こんなもので大丈夫か？」という疑念を抱くもの。しかし、実際に介護テクノロジーの力を体感すると、そかされることも、しばしば報告されています。

① ベテラン職員の心を動かす工夫

長年同じ方法で培った技術や習慣はすぐには変わりません。そこで有効なのは、**具体的なデータと事例**を交えた「サクッと説得作戦」です。

・数字で見る効果

例えば、「リフト導入後、腰痛発生率が30%低下した」という統計データ。こうした数字は、長年体を張って働いてきたベテランの心にも、徐々に響いていきます。

・実際の現場エピソード

「この前、リフトのおかげで利用者の移乗があったという話に驚かされたんですよ！」という話が、やがて施設内で口コミとなり、使い始めた職員たちのモチベーションを押し上げた事例も報告されています。自分の施設のことに限らず、お知り合いの施設の事例でも有効です。

② 外国人職員の実践エピソード

介護現場では、外国人職員の採用も、慣れる過程でさまざまな不安を抱えています。特に、利刃の介助作業には、異国の文化や慣習からくる抵抗感が

・移乗リフトで安心感アップ

例えば、ある外国人職員の一人は、「初めは介助に少し不安を感じていたが、リフト操作を覚えた途端、『これなら安心して仕事ができる』と語ったそうです。

・職場全体の雰囲気の変化

さらに、若手職員や外国人職員が先行ユーザーとなり、新機器の操作方法や活用のコツを仲間内で共有することで、現場全体が新しい技術に対して前向きな雰囲気につながったとのこと。

コラムページを新規作成

交流会などで寄せられた意見や事例を参考に、導入にあたって陥りがちな点などをコラム化。手引きの本編内容から多少外れるものの、参考事例として有用と思われるエピソードを引用して構成。

【介護事業者編】

- ① 導入に抵抗感を示す方への対処について
- ② 導入費は将来投資と見ることの重要性
- ③ 「事前の説明不足」が失敗を招くことについて

【企業編】

- ① コスト効果を丁寧に示すことの重要性について
- ② ユーザーが思う「代用すべきでないケア」について
- ③ 「事前の説明不足」が失敗を招くことについて

合計6点を各章の最後のページに掲載

note

- ・新技術はまず、前向きな職員を中心に試験導入し、その成功事例を共有する。
- ・数字と具体例を用いて、介護現場でのメリットを明確に伝える。
- ・利用者や家族向けに、デモや説明会を通じて安心感を提供する。

10

## (5) 「対象機器の導入」に関するチェックリストの作成（介護事業者編／企業編）

導入の各段階で確認すべき事項を整理し、チェックリストとして掲載。介護事業者と企業と一緒に導入に取り組みよう、企業編にも同様のチェックリストを掲載することとした。

**新規作成**

「対象機器の導入」に関するチェックリストを新規作成

本文の内容と連動させてチェック項目を設置

3 チェックシート

3 機器導入時

Step4 介護テクノロジーの導入

チェックリスト

7 試行期間 [ 年 月 日 ~ 年 月 日 ]

8 導入日 [ 年 月 日 ]

9 導入責任者 [ ]

目的の共有と懸念の解消

10 導入目的 [ ]

11 懸念点 [ ]

操作方法の説明／研修

12 説明会開催日 [ 年 月 日 ]

13 参加対象者 [ ]

職場運用に向けたルール

14 [ ]

45

**新規作成**

企業編にも同様に追加

介護事業者と一緒に作成していただけるよう、内容は共通化

3 チェックシート

3 機器導入時の支援

介護テクノロジーの導入

チェックリスト

7 試行期間 [ 年 月 日 ~ 年 月 日 ]

8 導入日 [ 年 月 日 ]

9 導入責任者 [ ]

目的の共有と懸念の解消

10 導入目的 [ ]

11 懸念点 [ ]

操作方法の説明／研修

12 説明会開催日 [ 年 月 日 ]

13 参加対象者 [ ]

職場運用に向けたルール

14 [ ]

23

## (6) 開発実証の流れおよびチェックリスト（介護事業者編／企業編）

実証実験を行う際の注意点や進め方について整理し、概要とチェックリストを参考資料として掲載。主に企業を対象とした内容だが、介護事業にとっても無関係な内容ではないため、介護事業者編にも同様に参考資料として掲載。

**新規作成**

「実証実験」に関する手順を新規作成

本プロジェクトで行なった準備事項を整理。チェックリストも合わせて作成し、企業編・介護事業者編に掲載（参考資料として）

参考資料

実証実験（臨床試験）を行う際の流れ

上市前の介護テクノロジー-実証実験（臨床試験）は、実際の介護現場で新技術を試用し、その効果や課題を検証するための重要なプロセスです。企業と施設双方が協力することで、現場のニーズに合った改善策が見出され、製品の普及や改良に向けた貴重なデータが収集されます。実証実験が活発化することは、現場ニーズに沿った介護テクノロジー開発の促進につながります。

実証実験とは

上市前の介護テクノロジーを、実際の介護現場で試用・評価する試験運用のこと

実証実験の目的

効果検証 介護職員負担軽減、作業効率向上など、具体的な効果を数値や事例で明示する。  
不安要素の解消 現場の疑問や懸念を事前に解消し、導入後の運用に対する安心感を確保する。  
製品改良と普及促進 より優れた結果をもとに、製品やサービスの改善、普及戦略の基礎とする。

実証実験の進め方の例（神戸市介護テクノロジー導入促進プロジェクトにおける進め方）

事前説明 企業と施設が実証実験の目的、手法、期待効果を詳細に検討し、事前に合意形成を図る。

同意書・契約書の取り交し 実証実験に関する同意書・契約書を施設と相互確認し、双方が納得する形で正式締結する。

実施方法のすり合わせ 実証実験の具体的な実施手順や各自の役割分担を十分に協議し、共通の進め方のために共通理解を確実に図る。

介護職員・利用者への説明 実証実験の趣旨や手順、期待効果を介護職員および利用者に対して説明し、十分な質疑応答で疑問を解消する。

実施実験の開催 計画されたスケジュールに沿って実証実験を開催し、実際の運用効果や課題を詳細に検証する。

結果の取りまとめとフィードバック 実証実験の結果を丁寧に整理・分析し、得られた知見を基に、フィードバックを迅速に共有し具体的な改善策を決定する。

次ページに実証実験を行う際のチェックリストを掲載しておりますのでご利用ください

26

**新規作成**

実証実験にあたっての確認事項

参考資料

実証実験の対象・目的

チェックリスト

対象テクノロジー [ ]

対象施設／担当者／人数数 [ ]

実証目的 [ ]

実施方法の確認（介護事業者とのすり合わせ結果）

実施期間 [ 年 月 日 ~ 年 月 日 ]

施設責任／運営 [ ]

実証担当者／連絡先 [ ]

実証事項（試すポイント） [ ]

企業編／施設側の準備状況 / 企業が準備するもの [ ]

施設が準備するもの [ ]

27

### 3.7 推進委員会実施報告

#### 委員会概要

本業務の遂行にあたっては、中立的な立場に立って介護ロボット等の選定・使い方・業務への組み込み方に対する助言や指導、評価、フィードバックを求めため、昨年同様第三者によって構成された推進委員会を設け定期開催した。

表 3.8.1 に構成メンバーを、以下および表 3.8.2 には開催概要を示す。

図表 3.8.1 推進委員会構成メンバー

	所属機関等	役職	氏名
推進委員	公益財団神戸国際医療交流財団	事業推進部長	三木 孝
推進委員	東京大学東京カレッジ	特任教授	浅間 一
推進委員	公益社団法人神戸市民間病院協会	会長	西 昂
推進委員	一般社団法人神戸市老人福祉施設連盟	理事長	出上 俊一
推進委員	一般社団法人兵庫県作業療法士会	代表理事・会長	長尾 徹
推進委員	神戸市シルバーサービス事業者連絡会	副会長	毎田 糸美
推進委員	一般社団法人日本ノーリフト協会 兵庫支部	理事／支部長	満田 弘美

#### 【第1回】令和6年7月10日（水）

主な目的：令和6年度業務の進め方と開発実証の方向性の議論

結果要旨：本業務の各活動が介護テクノロジー導入促進のどこに対応しているのか整理のうえ、令和6年度のイベントの開催に繋げることが求められる。

反映点：各活動の目的と役割を明確化し、令和6年度のイベント設計に反映。体験会・交流会・開発実証の連携を強化し、介護テクノロジー導入の障壁を解消するべく企画を具体化。

#### 【第2回】令和6年11月11日（月）

主な目的：交流会の成果を検証し、今後の方向性を整理

結果要旨：体験会・交流会の開催結果を共有し、介護事業者と企業の協働促進、介護テクノロジー導入の障壁、費用対効果の見える化の必要性が議論された

反映点：介護事業者と企業の情報共有に向け、実証データの蓄積・活用を促進し、導入効果の可視化に資するテーマを12/19の交流会に反映

#### 【第3回】令和7年2月17日（月）

主な目的：手引き改定の検証と業務の成果の整理

結果要旨：交流会やプロジェクト活動の結果を共有し、手引きの改定内容を確認。また、実証プラットフォームの構築に向けたロードマップを提示。

反映点：手引きの改定を進めるとともに、今後の課題等を整理。

図表 3.8.2 推進委員会開催概要

	第1回	第2回	第3回
開催日	令和6年7月10日（水） 14：00～16：00	令和6年11月11日（月） 14：00～16：00	令和7年2月17日（月） 14：00～16：00
開催方法	No Lift Labo	No Lift Labo	No Lift Labo
参加者	（委員）三木委員長、浅間委員、西委員、出上委員、長尾委員、有本委員、毎田委員、満田委員（ワザール※）市川、岡、小林（神戸市）須田課長、楊、山本（事務局）保田、阪本、木村	（委員）三木委員長、浅間委員、西委員、長尾委員、有本委員、毎田委員、満田委員（ワザール※）市川、小林（神戸市）須田課長、有馬係長、中村係長、楊、山本（事務局）保田、阪本、木村	（委員）三木委員長、浅間委員、西委員、出上委員、長尾委員、有本委員、毎田委員、満田委員（ワザール※）市川、小林（神戸市）有馬係長、中村係長、楊、山本（事務局）保田、阪本、木村
議事	1. 令和6年度プロジェクトの進め方について 2. 各イベントの開催とアウトプットについて 3. 今後の予定	1. 課題について体験会・交流会（8月7日（水）、8日（木））の開催結果 2. 活動結果を踏まえた今後の方向づけについて 3. 今後の予定	1. 交流会（12月19日（木））の開催結果 2. プロジェクト活動結果を踏まえた手引きの改定 3. 今後の予定 4. 実証プラットフォーム構築に向けた今後の方向性

※：川崎重工株式会社

### 3.8 成果報告会実施報告

本業務の実施結果の報告会を下記の通り開催した。NO LIFT LABO を会場として対面形式とし、リアルタイムでオンライン配信も行った。成果報告会終了後は同会場で交流会も行った。

日程 令和7年2月21日(金)

時間/開催方法 報告会 14:00~15:30/オンライン、会場 (NO LIFT LABO 健康ライブラザ5階)

交流会 15:30~16:30/会場のみ (NO LIFT LABO 健康ライブラザ5階)

報告会参加者数 62名 (オンライン27名/会場35名)、神戸市1名、事務局5名

交流会参加者数 35名 (会場のみ)、神戸市1名、事務局5名

#### 1) 当日スケジュール

13:40~ 参加者受付

14:00~ オリエンテーション

14:05~ 事業報告

(保田 淳子 | 一般社団法人日本ノーリフト協会 代表理事)

14:30~ 特別講演・座談会

(竹林 一 | 京都大学経営管理大学院客員教授/元オムロンイノベーション推進本部シニアアドバイザー)

(保田 淳子 | 一般社団法人日本ノーリフト協会 代表理事)

15:20~ 質疑応答

15:30~ 報告会終了 (※オンライン終了)

交流会開始 (※会場のみ)

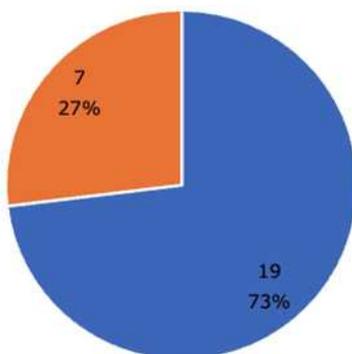
会場参加者のグループワークやディスカッション・質疑応答

16:10~ 自由に意見交換、名刺交換等を実施

16:30 交流会終了

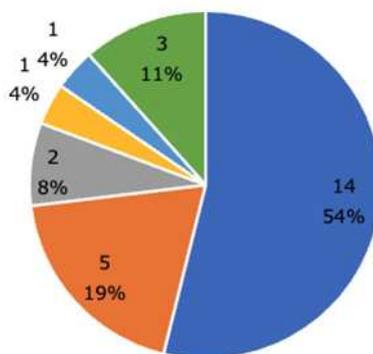
#### 2) アンケート結果

■ 参加方法 (n=26)



■ 会場  
■ オンライン (Zoom)

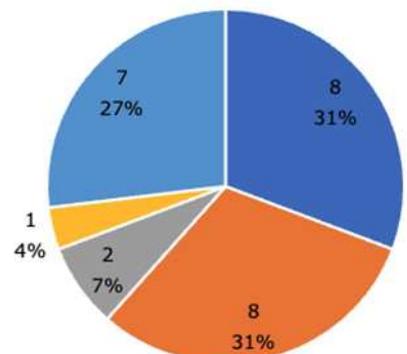
■ 職種 (n=26)



■ 管理職  
■ セラピスト  
■ 営業  
■ 介護職  
■ 開発職・エンジニア  
■ その他

「その他」の回答  
サービス業、在宅介護、  
介護支援専門員

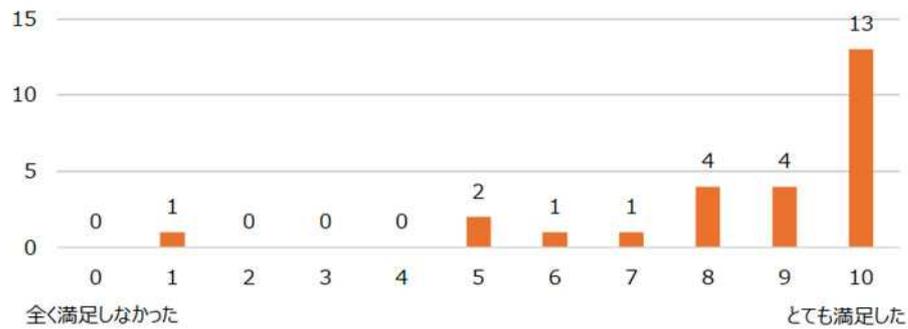
■ 所属先 (n=26)



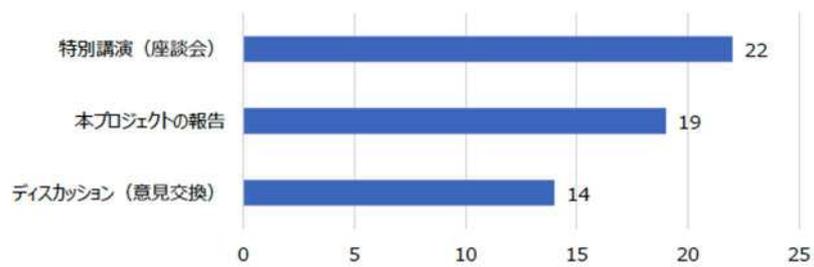
■ 介護施設  
■ 企業  
■ 病院  
■ 大学・教育機関  
■ その他

「その他」の回答  
兵庫県作業療法士会、フィットネス、  
研究機関、市役所職員、自営・大学教  
員・外資系コンサルファーム、個人、居宅  
介護支援事業所

■ 報告会の満足度 (n=26)



■ 報告会に参加してよかったプログラム (n=26) \*複数回答可

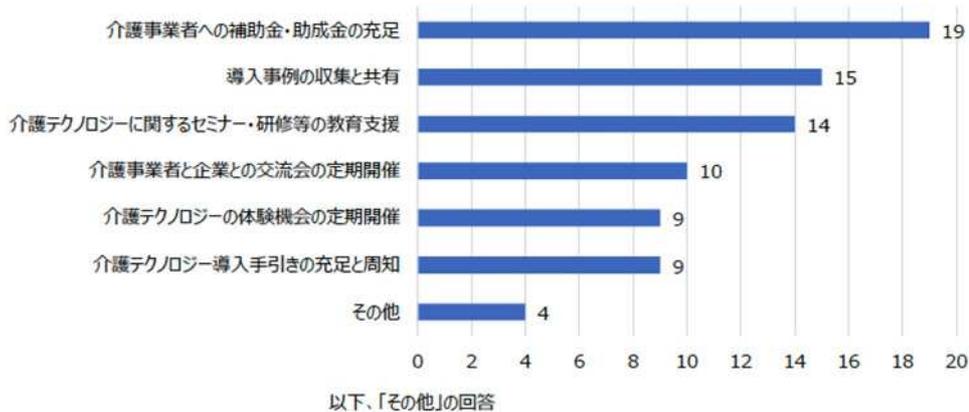


■ 報告会に参加して得られたメリット (n=26) \*複数回答可



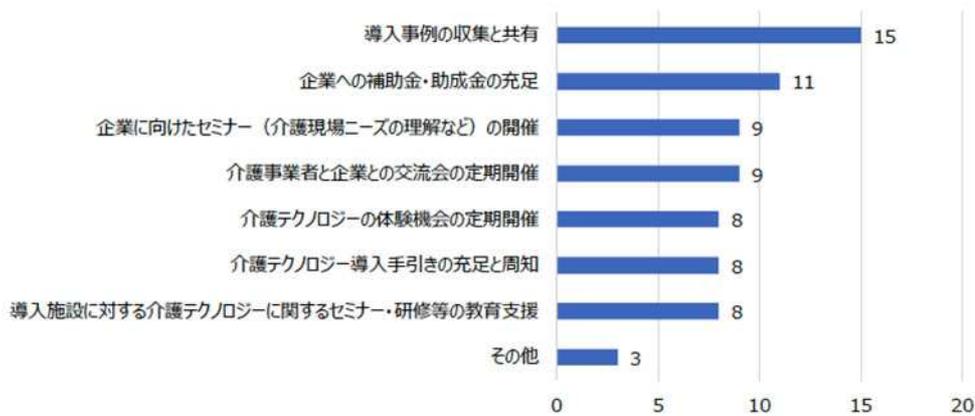
■ 市内の介護事業者にとってテクノロジー導入が促進されるためには何が必要か (n=26)

\*最大3つまで選択可



- ・ 自治体の影響力が大きいので、自治体にも参画して頂けると、更に促進されると思う
- ・ 従事者の所得アップ
- ・ 自治体が参画されると、事業者も興味をもちやすいかもしれない
- ・ アンケートでこの設問があるということは、施設がなぜテクノロジーを導入しないのか、具体的な問題点や課題を調査しきれていないのではないか。もしくは、問題点や課題が明確になっているとすれば、そこに対する公的な資金投資が足りていないのではないか。テクノロジーの導入は民間企業同士をマッチングさせることではなく、まだ県や市が主導して導入のためのガイドラインや導入の働きかけを施設側にしていくことが必要なフェーズのように思う。施設の現場で欲していないものを、どれだけ企業とマッチングさせても不要という回答しかないように思うが。。あまり参加していないので的外れな意見かもしれませんが、すみません。

■ 開発・販売企業にとって介護現場のニーズに沿ったテクノロジー開発や市場投入が促進されるためには何が必要か (n=24) \*最大3つまで選択可



以下、「その他」の回答

- ・ 自治体の参画があれば、企業にも結果的にメリットがありそう
- ・ 場のニーズを吸い上げたデザイン思考のワークショップは必須だと思う
- ・ 企業から施設へ数カ月、無料で機器等を貸し出したらよいのではないか。使ってもらって必要であれば購入かレンタルをしてもらうという形で、そういう取り組みをしますよということはこのプロジェクトで後押しすればいいのではないか。民間の企業が売り上げを上げるのは企業努力なので、企業に対する補助金は不要だと思う。それと導入することで具体的に施設がどの程度人件費が下がるかというデータをしっかり出していくのがよいと思う。

3) 当日の様子



## 4. R6 年度業務の考察

### 本業務参加者の傾向に関する考察

#### (1) イベントへの参加者数

令和5年度・6年度を通じたイベント参加者を図表-4.1.1 に示す。

開催会場は NO LIFT LABO に限らず、介護施設や企業に訪問して開催するなど、イベントの性質によって選定した。会場のキャパシティに応じて複数日で開催を行うなど、1回あたりの参加者数を数十名規模に設定し開催した。

図表 4.1.1 R5・6 年度のイベント参加者数（述べ数）

#### 令和5&6年度のイベント参加者数※延べ数

参加者	体験会 出展者含む		交流会					施設 見学会	川重 見学会	合計
	第1回 '23/8/25	第2回 '23/11/22	第1回 '23/8/25	第2回 '23/9/6	第3回 '23/11/22	第4回 '23/12/7	第5回 '24/3/4	'23/9/6	'23/12/7	
会場	No Lift Labo (NLL)		NLL	六甲の館	NLL	川崎重工	NLL	六甲の館	川崎重工	
介護施設数	5	12	5	2	12	11	15	4	11	77
参加人数	5	22	5	3	22	17	16	5	17	112
企業数	14	9	14	3	9	14	16	13	14	106
参加人数	16	15	16	4	15	18	20	15	18	137
一般 参加人数	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2
合計施設・企業数	19	21	19	5	21	25	31	17	25	183
合計参加人数	*22	*37	*22	7	*37	35	*36	20	35	251
イベント別の平均参加人数	29.5		27.4					-	-	-

No Lift Labo開催における平均参加人数：30.5（\*の平均値）

参加者	体験会 ※出展者含む		交流会				合計
	第3回 '24/8/7	第4回 '24/8/8	第6回 '24/8/7	第7回 '24/8/8	第8回 '24/12/19	第9回 '25/2/21	
会場	ディアージュ神戸		ディアージュ神戸		No Lift Labo		
介護施設数	11	9	11	9	9	7	56
参加人数	22	19	22	19	11	8	101
病院	1	2	1	2	2	1	9
参加者数	3	4	3	4	2	1	17
企業数	29	25	29	25	11	13	132
参加人数	39	31	39	31	16	21	177
一般 参加人数	21	28	21	28	1	5	104
合計施設・企業数	41	36	41	36	22	21	197
合計参加人数	85	82	85	82	*30	*35	319
イベント別の平均参加人数	83.5		58				-

No Lift Labo開催における平均参加人数：32.5（\*の平均値）

イベント1回あたりの平均参加人数を令和5年度と6年度で比較した場合、体験会が29.5人から83.5人へ、交流会が27.4人から58人へ増加している。しかしこれは令和6年度の会場がディアージュ神戸を利用したことが要因であり、NO LIFT LABO で開催したイベントを対象として比較した場合は、令和5年度が30.5人に対して6年度が32.5人と同水準であった。

参加者を述べ数でなく重複を除いた数で整理すると、図表 4.1.2 となる。

介護事業者は令和 5 年度が 30、6 年度が 20 であり、企業は令和 5 年度が 51、6 年度が 36 といずれも減少する結果となった。このうち企業については、開発実証支援に伴い令和 6 年度のイベントの開催総数が 5 年度より減少したため、その影響によるものといえる。

図表 4.1.2 R5・6 年度のイベント参加者数（重複除く）

	R5年度	R6年度	R5・6年度
介護事業者（市内）	30	20	40
うち新規	17	9	27
病院（市内）	1	4	4
うち新規	1	3	4
企業	51	36	68
うち新規	21	5	26

介護事業者については以下の要因が考えられる

- 1) 令和 5 年度までに導入を一旦完了し、新たな参加の必要性を感じなかった
  - ・ 過去にプロジェクトへ参加し、一定のテクノロジー導入を実施した介護事業者の中には、新たな技術導入の必要性を感じず、令和 6 年度の参加を見送った可能性がある。
  - ・ 現場の職員がテクノロジーの運用に慣れるまでに時間がかかるため、新たな機器の導入を一時的に控える動きが見られた可能性がある。
- 2) 介護テクノロジーを課題解決手段とすることに対する理解不足
  - ・ 慢性的な人材不足や業務負担の増加が課題となっておるものの、介護テクノロジー導入によって解決を目指す意識や理解が不足している介護事業者が大多数を占めており、プロジェクト参加動機に繋がらない可能性がある。

## （2）参加状況の違いによる介護事業者の傾向について

令和 3 年度から 6 年度までの介護事業者（病院含む）のイベント参加状況は、下記 3 つにグルーピングされる（図表 4.1.3 参照）

- ① 年度を跨いでリピート的に参加している介護事業者
- ② 過去に参加していたが令和 6 年度には不参加の介護事業者
- ③ 令和 6 年度で初参加の介護事業者

図表 4.1.3 介護事業者のグルーピング

No.	施設名	プロジェクト参加状況										
		R3	R4 (プロジェクト 主体)	R4 (体験会のみ)	R5					R6		
					第1回体験会 第1回交流会	施設見学会 第2回交流会	第2回体験会 第3回交流会	川重見学会 第4回交流会	R5年度 報告会	第3,4回体験会 第6,7回交流会	第8回交流会	報告会 第9回交流会
1	特別養護老人ホーム 六甲の館	●	●		●	●			●	●	●	●
2	特別養護老人ホーム塩屋さくら苑	●	●						●	●	●	●
3	介護付有料老人ホーム ディアージュ神戸	●		●	●				●	●	●	●
4	コウダイケアサービス株式会社	●			●				●	●		
5	特別養護老人ホーム真愛あらたホーム	●	●			●				●		●
6	特別養護老人ホーム八多の里	●										
7	介護付有料老人ホーム コンフォートヒルズ六甲	●										
8	特別養護老人ホーム向陽荘		●							●		
9	特別養護老人ホーム サンホーム神戸西				●	●	●	●				
10	特別養護老人ホームさつき園	●		●						●		●
11	特別養護老人ホーム櫻ホーム西神	●		●		●				●		
12	特別養護老人ホーム山手さくら苑	●	●							●	●	
13	モーツァルト兵庫駅前	●										
14	特別養護老人ホームうみのほしルルド	●										
15	KOBE須磨さくらえん	●		●				●	●	●	●	●
16	翔月庵 神戸大開		●							●		
17	特別養護老人ホーム オービーホーム高丸	●										
18	介護老人保健施設すばる六甲		●									
19	まんてん堂たるみ神陵台			●								
20	特別養護老人ホーム永栄園			●								
21	みどり病院			●								
22	介護老人福祉施設ぼー愛	●								●		
23	特別養護老人ホーム 宙カミノ	●										
24	高齢者ケアセンターひょうご		●									
25	特別養護老人ホームしあわせの家			●				●				
26	社会福祉法人報恩会											
27	カネディアンヒル介護老人保健施設	●										
28	グループホーム陽だまり					●						
29	株式会社サポートクラブゆう											
30	地域密着型介護老人福祉施設 梅香園					●						
31	特別養護老人ホーム大慈智音園					●						
32	介護老人保健施設ドリームヒルズ滝山					●						●
33	ソーシャルコート神戸北							●				
34	特別養護老人ホームプレーハレイ							●				
35	社会福祉法人すまいる厚生会							●				
36	特別養護老人ホーム愛の園シオンの丘									●		
37	ふれあいホーム									●		
38	訪問看護ステーションさくら									●	●	●
39	特別養護老人ホーム 神戸まどか園									●	●	●
40	特別養護老人ホーム岩岡の郷									●	●	●
41	小原病院									●	●	●
42	介護老人保健施設ハーベシア											
43	住宅型有料老人ホーム シャローム神戸有野台									●		
44	神港園サニライフ白川							●				
45	本多間ケアホーム/介護支援センター ショートステイ											
46	特別養護老人ホーム かもこの風											●
47	株式会社アクティブライフ											●
48	一般財団法人 神戸在宅医療・介護推進財団											●
49	サテライト特養ももやまだい											●
50	アネックス湊川ホスピタル											●
51	宮地病院											●
52	小規模特別養護老人ホーム 真愛くもちホーム										●	●
53	老人保健施設あずさ										●	●
54	株式会社エルセンケア						● (欠席)					
55	夢野老人ホーム									●		
56	ファミリーフォースピース神戸垂水ハウス									●		
57	西記念ポータルアイランドリハビリテーション病院											●

① 年度を跨いでリピート的に参加している

② 過去に参加したが

R6 には不参加

リピート参加

③ 新たに参加

図表 4.1.3 の①～③の傾向を示すために、3.5 章で述べた「介護テクノロジー導入状況のヒアリング結果」をこのグルーピングを用いて整理すると図表 4.1.4 となる。

図表 4.1.4 プロジェクトの参加状況と機器導入状況の関係

			① 年度を跨いで 複数回参加	② 過去に参加したが R6は不参加	③ R6から 新規参加
母集団数 (施設・病院数)		a	12	31	12
ヒアリングへの 対応状況	回答が得られた施設数	b	7	15	3
	回答率	b/a	58.3%	48.4%	25.0%
導入状況	機器導入件数	c	12	11	1
	施設あたりの導入件数	c/b	1.7	0.7	0.3

リピート的に参加している①はヒアリングの回答率が比較的高い（58.3%）が、②、③は48.4%、25.0%と低く、ヒアリングへの協力姿勢に違いが見られる。また、導入の件数は①については回答が得られた7施設が12件の導入を行っており、施設あたり1.7件の導入を行っている一方で、②は0.7件、③は0.3件と低下している。

こうした状況には、各介護事業者の課題意識や動機形成の違いが大きく影響していると考えられる。

#### 1) テクノロジー導入への目的意識の違い

- ・ ①の介護事業者は、業務負担の軽減やサービスの質向上を目的としてテクノロジーの導入を積極的に検討している。こうした介護事業者は、年度を跨いで継続的にプロジェクトへ関与し、新たな技術の検討や改善に意欲的
- ・ ②の介護事業者は、過去にテクノロジー導入の必要性を感じていたものの、導入後の効果や現場での活用に課題を感じ、次年度以降の参加を見送った可能性がある
- ・ ③の介護事業者は、導入の必要性を感じ始めた段階であり、技術の選定や活用方法に関する知識が十分に蓄積されていないため、導入件数が伸び悩んでいると考えられる

#### 2) 施設の経営方針や導入判断プロセスの違い

- ・ ①の介護事業者は、経営層がテクノロジー導入の意義を理解し、職員とともに継続的な検討を行う文化が形成されている
- ・ ②の介護事業者は、導入当初は前向きであったものの、現場での適用に困難を感じた結果、経営層がさらなる投資に慎重になった可能性がある
- ・ ③の介護事業者は、初めてプロジェクトに参加するため、テクノロジーの選定や導入手順が不明確であり、具体的な導入判断に至るまでのプロセスに時間を要すると思われる

#### 3) 介護現場での受容度と職員の意識の違い

- ・ ①の介護事業者では、テクノロジーを活用することで業務が効率化されることを職員が実感しており、新たな技術の導入にも前向きな姿勢が見られる
- ・ ②の介護事業者は、導入時の現場負担が大きかったり、期待した効果が得られなかったりしたことで、職員の意欲が低下した可能性がある
- ・ ③の介護事業者は、導入に対する不安が強く、職員の理解や活用の定着が進んでいないことが、導入件数の少なさに繋がっていると考えられる

### (3) 求められる対応について

令和6年度の参加者傾向は、「テクノロジー導入の必要性を感じている介護事業者」と「導入に慎重な介護事業者」の二極化が進んだ結果と考えられる。この状況を踏まえ、意欲の低い介護事業者には導入の動機を形成し、意欲の高い介護事業者にはさらなる発展を支援する「2軸対応」を採用し、より多くの介護事業者がテクノロジー導入に積極的に取り組める環境を整えることが求められる。

介護事業者の参加意欲の二極化が進む中で、今後の対応策としては、「意欲の低い介護事業者への動機形成」と「意欲の高い介護事業者への高度な支援」の2軸対応が求められる。

#### 1) 意欲の低い介護事業者への動機形成

- ・ ②の介護事業者に対する支援：過去の導入事例を再評価し、導入効果の最大化に向けた改善策を提示することで、再び導入を検討できるよう支援する。
- ・ ③の介護事業者に対する支援：導入初期の不安を軽減するため、先行事例の紹介や小規模での試験導入を推奨し、成功体験を積み重ねられる機会を提供する。

#### 2) 意欲の高い介護事業者への高度な支援

- ・ ④の介護事業者に対する支援：導入技術の高度化を支援し、先進的な取り組みを加速させる。例えば、複数技術の組み合わせによるシナジー効果の検証や、施設間連携によるモデルケースの構築を推進する。
- ・ 介護事業者間の知見共有の促進：リピート参加している介護事業者の成功事例を、他の事業者にも共有することで、導入促進の好循環を生み出す。